令和８年度

森林・林業研修実施計画

Syllabus　2026

AICHI_SHINRIN_RINGYO_C
Instagram

Facebook

愛知県
森林・林業技術センター

＜目　　次＞

Ⅰ　愛知県森林・林業研修　実施方針 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

Ⅱ　愛知県における現場技術者等の研修体系 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

Ⅲ　研修科目と達成目標・定員・開催日等一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

Ⅳ　森林・林業研修シラバス

１　林業従事者研修

（１）キャリアアップ研修 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

①基礎コース ・・・7

②－１中堅コース（伐木技術） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18

②－２中堅コース（木材生産技術） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22

③指導者コース ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

④救命救急・安全技術 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

（２）労働安全衛生研修 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

２　行政職員研修

（１）市町村職員技術習得研修 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

（２）林業普及指導研修 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36

（３）林政研修 ・・43

３　資格等取得研修一覧（再掲） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44

Ⅴ　森林・林業研修年間カレンダー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46

Ⅵ　愛知県森林・林業技術センター　研修実施要領 ・・・・・・・・・・・・・・・・50

Ⅶ　受講にあたって ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

○　案内図 ・・・ 57

※研修の受講申込書は森林・林業技術センターHP からダウンロードできます。

https://www.pref.aichi.jp/site/kensyu/0000009469.html

Ⅰ　愛知県森林・林業研修　実施方針

愛知県森林・林業技術センターが行う研修は以下の方針で行います。

1　研修方針

（1）林業生産性の向上並びに林業従事者の育成と資質の向上を図ることを目的に、林業従事者等に対し、経験年数や知識・技術レベルに応じた計画的かつ体系的な研修や労働安全に係る研修を実施します。

（2）林業は事故発生率が高く、特にチェーンソーを用いた立木の伐倒作業中の事故が多発しているため、チェーンソー操作・伐倒手順・指導等の研修を重点的に実施し、全ての研修は安全を最優先で行います。

（3）林務行政に携わる職員に対し、業務を円滑に進め、課題を解決するための知識及び技術についての研修を実施します。

2　受講対象者

（1）愛知県内で、森林・林業に携わっている者

（2）林務行政に携わる市町村職員等

（3）その他所長が適当と認める者

3　定員

研修毎に定める。

4　受講料

無料（林業・木材製造業労働災害防止協会 愛知県支部の講習を除く）

5　講師

（1）外部講師

（2）県林務関係職員（林務行政職員、林業普及指導員、研究員等）

6　研修場所

愛知県森林・林業技術センター等

7　令和８年度研修の主な変更点

（１）「【A1】林業就業支援研修」にて刈払機取扱者安全衛生教育の受講が可能

（２）早い時期から森林・林業に関する知識の向上が図れるように「【A11】林業現場技能者育成研修」を基礎コースで受けられるように変更

（３）「【A11】林業現場技能者育成研修」の個々の研修を個別【A4～A10】に受講可能

（４）「【C2】林業架線作業主任者養成研修」は２年に１回の開催に変更
（令和８年度は開催年です）

（５）法令改正が多いドローンに関する基礎知識の研修を新設

8　その他

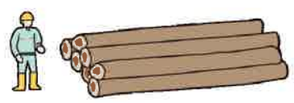
県内林業経営体の希望に応じ、必要な研修を随時行います。

Ⅱ　愛知県における現場技術者等の研修（あいち林業技術強化カレッジ）体系

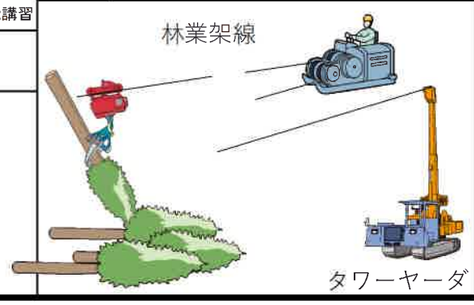
～森づくりを理解し、安全かつ効率的に作業できる人材の育成を目指し、経験年数や知識・技術レベルに応じた研修を実施～

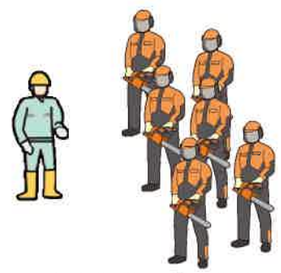
林業就業後 →

	林業体験等	①基礎コース	②中堅コース		③指導者コース
目標	林業に対する理解促進を図る。 林業の担い手の確保を図る。	新規林業就業者が、伐木等の技術を習得し、労働安全の徹底を図る。	②-1 伐木技術 間伐等の森林整備の技術習得を図る。	②-2 木材生産技術 循環型林業や木材生産の技術習得を図る。	組織として人材育成や労働安全に取り組む体制整備ができる技術の習得を図る。
経験年数	未経験者	１～３年目の新規就業者	４～１０年目の中堅技術者		１０年目以上の指導者
県独自の研修	林業高校生体験講座 林業体験研修 インターンシップ支援	A1 林業就業支援研修 A2 林業安全技術訓練（初級） A3 チェーンソー技術強化研修 A4～A10・A11林業現場技能者育成研修	B1 林業安全技術訓練（中級） B2 ｱｰﾎﾞﾘｶﾙﾁｬｰ技術習得研修（初級） B3 ｱｰﾎﾞﾘｶﾙﾁｬｰ技術習得研修（中級） B4 かかり木処理・枯損木伐倒技術研修	C1 路網作設技能者育成研修 C2 林業架線作業主任者育成研修 C3 林業ICT技術研修（森林クラウドシステム） C4 林業ICT技術研修（県内取組事例）	D1 伐木技術指導者育成研修 D2 意欲と能力のある林業経営体育成研修
		E1 野外レスキュー研修（救命救急）、　E2 伐木安全技術研修会（伐木競技会）			
緑の雇用　等	林業就業支援講習 （厚労省事業） 林業の基礎知識の習得、実地研修、現場見学、就業相談等の林業就業支援	ＦＷ（フォレストワーカー）研修 １～３年目 林業現場で必要な知識、技術、技能の習得、安全作業の定着及び高性能林業機械作業の習得 ※集合研修　　21～29日 職場でのOJT研修　130日以上	ＦＬ（フォレストリーダー）研修 ５年目以上 判断力、指導力を向上させ、作業班長として、現場のコスト管理、工程管理を行うとともに、生産性を向上させるために必要な高度な知識、技術を習得 ※集合研修　16日		ＦＭ（フォレストマネージャー）研修 １０年目以上 経営の視点、現場の統括、労働安全指導、より高度な技術、組織内外でのコミュニケーション能力の向上 ※集合研修　10日
取得できる資格等	林業就業支援講習：普通救命救急講習 刈払機安全衛生教育 チェーンソー特別教育	FW1：普通救命救急講習 刈払機安全衛生教育 チェーンソー特別教育 玉掛け技能講習 小型移動式クレーン技能講習 FW2：不整地運搬車技能講習 はい作業安全教育 機械集材装置特別教育 車両系建設機械特別教育 フォワーダ特別教育 FW3：スイングヤーダ特別教育 ハーベスタ特別教育	FL：造林作業指揮者安全衛生教育 はい作業主任者技能講習 地山の掘削及び土止め支保工作業主任者技能講習 県：森林整備工事の主任技術者 ロープ高所作業特別教育	県：林業架線作業主任者免許 フルハーネス型墜落制止用器具特別教育	FM：安全衛生推進者養成講習



はい作業



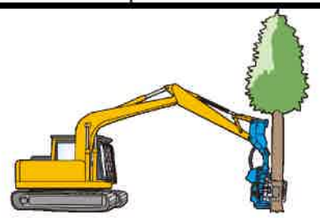


安全指導、現場指導

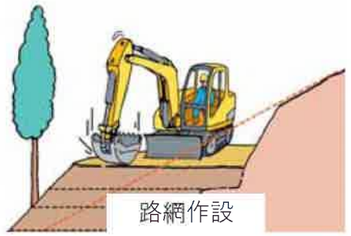
高性能林業機械

フォワーダ

スイングヤーダ



ハーベスタ
プロセッサ



路網作設

路網による作業システム

Ⅲ　研修科目と達成目標・定員・開催日等一覧

１　林業従事者研修（Ａ～Ｅ：（１）キャリアアップ研修　Ｆ：（２）労働安全衛生研修）

※開催日等は変更されることがあります。

区　分		科　目		達成目標	定員/回	研修日数	実施回数	開催予定日	ｼﾗﾊﾞｽページ
①基礎コース	A1	林業就業支援研修【一部新規】		労働災害ゼロで活躍するために、伐木等の業務に係る特別教育や刈払機取扱者安全衛生教育の受講、チェーンソー操作基本を覚える。使用する機械・道具のメンテナンス方法を学ぶ。	15 (10)	9	1	4/ 8～10(水～金)、4/22(水)、24(金)、28(火)、 5/ 15(金)・22(金)・29(金)	7
	A2	林業安全技術訓練 （チェーンソー技術）	①初級	チェーンソーによる安全な伐倒技術の基礎を身につける。	10	1	3	6/29(月)または6/30(火)または7/ 1(水)	8
	A3	チェーンソー技術強化研修（伐木競技会事前研修）		伐木競技会の参加を通して、チェーンソーの安全で確実なコントロール技術を身につける。	10 10	2	2	7/21（火）及び7/22（水）または23（木）	9
	A4	目標林型と育林技術		森林をどう仕立てていくか（目指す森林が目標林型）、環境・生態・経済性の視点から考え方や育林技術を学ぶ。	5	1	1	9/ 1(火)	10
	A5	高性能林業機械の活用		高性能林業機械を活用した施業システムや性能を発揮するためのメンテナンスを学ぶ。	5	1	1	9/ 4(金)	11
	A6	伐木技術の向上		安全で確実な伐倒技術、チェーンソーのメンテナンス方法の再確認を行う。	5	1	1	9/ 8・9(火・水)	12
	A7	木材生産コストの構造把握と分析		木材生産プランの立案や現場管理に必須である木材生産コスト管理方法を演習と通じて学ぶ。	5	1	1	9/17・18(木・金)	13
	A8	植栽と獣害対策		主流となったコンテナ苗の植栽とシカ等の特性や獣害対策の要を学ぶ。	5	1	1	11/ 9・10(月・火)	14
	A9	木材流通と加工		木材の流通、加工から利用までのサプライチェーンを知り、需要の変化に対応した生産体制の必要性を学ぶ。	5	1	1	11/13(金)午前	15
	A10	森林整備工事の現場管理		森林整備工事の現場を管理する上での確認ポイントや注意点を学び、森林整備入札参加資格の主任技術者の資格取得に繋げる。	5	1	1	11/13(金)午後	16
	A11	林業現場技能者育成研修		森林整備工事参加資格要件の１つ、主任技術者の資格取得を通じ、林業全般に関する専門的な知識・技術を身につける（A4～A10＋F3+F7）。	5	12	1	9/ 1(火)～	17
	F1	刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育		刈払作業に関する知識、刈払機に関する知識及び技術を習得し、安全衛生教育を修了する。	40	1	3	4/28(火)、9/16（水）、3/17（水）	30
	F2	伐木等の業務に係る特別教育		伐木造材に関する知識、チェーンソーに関する知識及び技術の習得を習得し、特別教育を修了する。	40	3	5	4/ 8～10(水～金)、 6/24～26(水～金)、 9/28～30(月～水)、10/28～30(水～金)、 3/ 3～5(水～金)	
	F3	機械集材装置運転特別教育		架線集材（動力を用いて原木等を巻き上げ、空中において運搬する設備）に関する知識及び技術を習得し、特別教育を修了する。	30	2	1	学科：11/24(火) 実技：11/25(水)	
	F4	走行集材機械（フォワーダ等）運転業務特別教育		フォワーダ等走行集材機械に関する知識及び技術を習得し、特別教育を修了する。	10	2	1	学科：7/14(火) 実技(※)　：9/10(木)	
	F5	簡易架線集材装置・架線集材機械（スイングヤーダ等） 運転業務特別教育		スイングヤーダ等簡易架線集材装置・架線集材機に関する知識及び技術を習得し、特別教育を修了する。	10	3	1	学科：7/16(木) 実技(※)　：9/ 2・3(水・木)	
	F6	伐木等機械（ハーベスタ・プロセッサ等）運転業務特別教育		ハーベスタ・プロセッサ等伐木等機械に関する知識及び技術を習得し、特別教育を修了する。	10	2	1	学科：7/15(水) 実技(※)　：8/20(木)	
②中堅コース　②－1 伐木技術	B1	林業安全技術訓練 （チェーンソー技術）	②中級	チェーンソーの取扱、伐倒方法を再点検し、自己流を正すとともに、指導者としての教え方を学ぶ。	10	1	2	10/ 5(月)または 6(火)	18
	B2	ｱｰﾎﾞﾘｶﾙﾁｬｰ技術習得研修	ロープクライミングとリギング（初級）	ロープクライミング（ロープを利用し木に登る技術等）やリギング（伐った枝や幹を地上に安全に降ろすための技術）の基礎を学ぶ。	12	5	1	4/13～4/17(月～金)	19
	B3	ｱｰﾎﾞﾘｶﾙﾁｬｰ技術習得研修	リギング（中級）	リギング技術の応用編。基礎を再確認し、より難しい場面への対応を学ぶ。	9	3	1	5/12～5/14(火～木)	20
	B4	かかり木処理・枯損木伐倒技術研修		発生することが多く重大な事故の原因となるかかり木や枯損木の安全な処理・伐倒方法を学ぶ。	6	2	2	【A日程】6/ 1・ 2(月・火) 【B日程】6/ 3・ 4(水・木)	21

１　林業従事者研修（Ａ～Ｅ：（１）キャリアアップ研修　Ｆ：（２）労働安全衛生研修）

※開催日等は変更されることがあります。

区　分		科　目		達成目標	定員/回	研修日数	実施回数	開催予定日	ｼﾗﾊﾞｽページ
②中堅コース	②－1 伐木技術	F7	危機管理リスクアセスメント	林業におけるリスクアセスメント担当者に必要な知識及び技術の習得。	40	1	1	11/27(金)	30
		F8	伐木等の業務に係る特別教育　修了者再教育	チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドラインにより推奨されている伐木等業務特別教育修了者対象の再教育を修了する。	40	1	1	12/16(水)	
		F9	高性能林業機械運転業務講習会（再教育）	高性能林業機械運転業務に関する労働災害をなくすため、再教育を修了する。	20	各1	1	走行集材機械：　7/14(火)、伐木等機械：7/15(水) 簡易架線集材機械：7/16(木)	
	②－2 木材生産技術	C1	路網作設技能者育成研修	路網計画は作業システムの効率を左右するため、簡易で丈夫、かつ環境に配慮した路網作設の知識・技術を学ぶ。	5	5	1	8/18(火)、8/21(金)、10/13～15（火～木）	22
		C2	林業架線作業主任者育成研修 ※令和８年度から２年に１度の開催です	これから増える大径木や皆伐現場での運の案に用いられる集材機を用いた現場において、一定規模の架線集材で常駐が必要である林業架線作業主任者免許の取得を目指す。フルハーネス型墜落抑止用器具の特別教育を修了する。	10	18	1	学科：6/12(金)、6/15～19(月～金)、6/22・23(月・火) フルハーネス型墜落抑止用器具の特別教育：7/24(金) 実技：7/27～ 7/30(月～木)、8/ 3～ 7(月～金)	23
		C3	林業ICT技術研修（森林クラウドシステム基礎操作）	木材生産現場候補地の選定や、地形の把握、森林境界の推定等に有利な森林クラウドシステムの基本操作とデータの活用方法を学ぶ。	15	1	1	8/27(木)	24
		C4	林業ICT技術研修（県内取組事例）	ICT技術を導入し効率化した県内事例の紹介。ICTの有効性・自社への応用について考える。	15	1	1	8/28(金)	25
③指導者コース		D1	伐木技術指導者育成研修	自分自身の性格・興味の傾向を把握し、コミニュケーションの注意点を学ぶ。伐倒技術と労働安全について再確認し、知識・技術を後輩等に伝える方法を学び、指導者としての実力を身につける。	6	3	1	5/25～ 5/27(月～水)	26
		D2	意欲と能力のある林業経営体育成研修	林業経営体の管理職・役職員向け研修。自社を取り巻く経営環境の分析と抱える課題の抽出と解決方法、労働安全対策の追求について学ぶ。	20	1	1	8/28(金)	27
④救命救急・安全技術		E1	野外レスキュー研修	交通や通信が不便なことが多い林業の現場で、事故が発生した際の迅速で適切な対応について学ぶ。	15	2	1	学科（E-ラーニング）：5/ 29(金)～6/4(木)のうち４時間 実技：6/5(金)	28
		E2	伐木安全技術研修会（伐木競技会）	伐木競技会への参加を通じ、安全への意識と技術を身につける。	15	1	1	令和８年秋（予定）	29

実技(※)：会場未定。詳細は研修受講時に林業・木材製造業労働災害防止協会愛知県支部より連絡。

２　行政職員研修

注：(1)市町村職員技術習得研修は林業従事者等も参加可能です。

※開催日等は変更されることがあります。

区分	科目			達成目標	定員/回	研修日数	実施回数	開催予定日	ｼﾗﾊﾞｽページ
(1)市町村職員技術習得	G1	森林・林業等基礎研修		森林・林業に関する法令・施策を知り、理解するための知識を幅広く学ぶ。	50	1	1	5/11(月)	31
	G2	測量等基礎研修		森林経営管理法などによる森林整備の委託や工事発注をする際、検査等に必要な測量等の基礎知識を学ぶ。	10	1	1	6/10(水)	31
	G3	森林・林業業務推進研修	①調査方法	森林整備事業の設計等に必要となる森林資源調査の方法を学ぶ。	15	1	1	7/ 7(火)	32
			②検査・設計業務	森林整備事業の設計・積算方法、監督・検査業務の留意事項を習得する。	15	1	1	7/ 9(木)	32
			③路網整備の技術と実務	路網配置計画の作成、路線設計・作設の方法を習得する。	15	1	1	8/18(火)	32
	G4	森林管理研修	①森林経営管理法	森林経営管理制度の目的・内容、意向調査から経営管理実施権配分計画策定までの流れ、実施上の課題解決の方法について学ぶ。	20	1	1	７月上旬	33
			②林業ICT技術（森林クラウドシステム基礎操作研修）	森林簿・森林計画図など森林情報の確認、路網計画のための地形の把握、森林境界の推定等に有利な森林クラウドシステムの基本操作方法を学ぶ。	15	1	1	5/19（火）	33
	G5	無人航空機（ドローン）基礎知識【新規】		普及に伴い改正が重ねられているドローンに関する法令と使用上の注意点について学ぶ。※本研修では実技はありません。	20	1	1	5/18（月）	34
	G6	地域林政アドバイザー研修		地域林政アドバイザーに必要な知識・技術の習得し、修了証を得る。	10	5	1	７月上旬～ 8/18（火）	34
	G7	森林吸収源対策実務者研修		森林整備促進のツールとして注目されるJ-クレジット制度に関する基礎知識を学ぶ。	15	1	1	8/25(火)	35
(2)林業普及指導	G8	新任林業普及指導員研修★		普及指導の理念を理解し、林業普及指導員としての役割を自覚する。	対象者全員 5	2	1	4/20・21(月・火)	36
	G9	森林経営指導実務者研修★		林業経営体の経営・人材育成を支援するために必要な知識を学び、実践的スキルを習得する。林業経営体の経営状況を読み解き、より良い状態への改善サポートができるようになる。	10～20	8	1	4/23(木)、5/21(木)、6/ 2(火)、 7/ 2(木)、7/16(木)、 9/17・18(木・金)、R9/2/18(木)	37
	G10	森林クラウド活用研修★		森林クラウドシステム及びQGISを活用する技術・知識を学び、林業経営体を指導する。	10	1	1	7/ 8(水)	36
	G11	路網整備の技術と実務		路網配置計画の作成、路線設計・作設の方法の知識を習得し、林業経営体や市町村職員への指導に活かす。	5	1	1	8/18(火)	38
	G12	野外レスキュー研修		交通や通信が不便なことが多い林業の現場で、事故が発生した際の迅速で適切な対応について学び、労働安全指導に活かす。	5	1	1	6/ 5(金)	38
	G13	林業架線研修（架設・撤去）		林業架線作業に必要な機械集材装置の架設及び撤去について学び、作業計画作成等をサポートする。	10	3	1	設置：11/17・18（火・水）、撤去：12/ 1(火)	39
	G14	目標林型と育林技術		森林をどう仕立てていくか（目指す森林が目標林型）、環境・生態・経済性の視点から考え方や育林技術を学び、林業経営体や市町村職員を指導する。	5	1	1	9/ 1(火)	39
	G15	木材生産コストの構造把握・分析		木材生産プランの立案や現場管理に必須である木材生産コスト管理方法を演習を通じて学び、林業経営体への指導に活かす。	5	2	1	9/17・18(木・金)	40
	G16	植栽と獣害対策研修		主流となったコンテナ苗の植栽とシカ等の特性や獣害対策の要を学び、適切な指導ができるスキルを身につける。	5	2	1	座学：11/ 9(月)、実習：11/10(火)	40
	G17	木材流通と加工		木材の流通、加工から利用までのサプライチェーンを知り、需要の変化に対応した生産体制の必要性を学び、有利販売についての助言ができるようになる。	5	1	1	11/13(金)	41
	G18	刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育		安全衛生教育を修了して刈払機の安全な操作方法を習得し、労働安全指導に活かす。	10	1	1	8/20(木)	41
	G19	伐木等の業務に係る特別教育		特別教育を修了して伐木造材に関する知識、チェーンソーに関する知識及び技術を習得し、的確な労働安全指導に活かす。	10	3	1	12/ 7～ 9(月～水)	42
(3)林政	G20	林務行政の概要		林務行政の概要を把握し、担当業務の位置づけを確認する。	対象者全員 5	2	1	5/7・8(木・金)	43
	G21	林務行政の課題		林務行政の課題を認識し、自身の考えを整理する。	対象者全員 10	2	1	6/8・9(月・火)	43

★は県庁農林基盤局林務部林務課普及グループが実施します

Ⅳ　森林・林業研修シラバス

1　林業従事者研修

(1) キャリアアップ研修

①基礎コース

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	林業就業支援研修			A	1
お薦めポイント	林業に就業したての方、必見！ ４月中にチェーンソーの講習・刈払機取扱者の安全衛生教育が修了できます。 すでに資格を持っている方は扱いに慣れましょう。				
背景と目的	チェーンソーや刈払機を業務で使用するためには、労働安全衛生法に定められた講習を受講する必要があります。就業後、速やかに資格を取得し、実際の林業作業を現場で学ぶことで、即戦力となる新規就業者を育成します。				
到達目標	労働災害ゼロで活躍するために、伐木等の業務に係る特別教育や刈払機取扱者安全衛生教育の受講、チェーンソー操作基本を覚える。使用する機械・道具のメンテナンス方法を学ぶ。				
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に就業し、従事経験が３年未満の者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者				
定　　員	15名（最少催行人数5名） ただし伐木等の業務に係る特別教育・刈払機取扱者安全衛生教育は各10名				
開催場所	愛知県森林・林業技術センター				
内容		科　目	内　容	講　師	日　程
	1	伐木等の業務に係る特別教育 （チェーンソー講習）	・伐木造材に関する知識、チェーンソーに関する知識及び技術の習得 【学科】９時間　【実技】９時間	林災防愛知県支部より派遣	3日　4/ 8～10（水～金）
	2	オリエンテーション 労働安全衛生教育	・安全作業のポイント ・リスクアセスメント ・高性能林業機械（シミュレータ操作実習等）	県職員 森林ヒューマン・ファクター研究所 山田容三氏	1日　4/22(水)
	3	道具のメンテナンス方法	・チェーンソー、刈払機のメンテナンス方法 ・鉈などの研ぎ方 ・道具の使い方	株式会社山福 山下和俊氏	1日　4/24(金)
	4	刈払機取扱者安全衛生教育【新規】	・刈払機に関する知識、技術の習得 【学科】５時間　【実技】１時間	林災防愛知県支部より派遣	1日　4/28(火)
	5	チェーンソー操作基本トレーニング	・チェーンソー操作の基礎 ・丸太の輪切りトレーニング ・伐倒トレーニング（受け口・追い口）	岡崎森林組合 香川恵一郎氏 大井宣志氏	3日　5/15(金) 5/22(金) 5/29(金)
教　　材	科目による				
備　　考					

労働安全について学ぶ（林業安全ゲーム）

道具のメンテナンス方法

受け口・追い口の作り方をトレーニング

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	林業安全技術訓練（チェーンソー技術）　①初級	A　2
お薦め ポイント	慣れてきた頃があぶない⚠ クセや気の緩みがないか、基本を定期的に復習！	
背景と目的	チェーンソーを用いた伐木造材作業は、労働災害の危険度が高く、死傷災害の発生率も依然として高い状況にあります。伐木造材作業は、安全な伐倒技術を身につけ、定期的にチェックすることが大切です。	
到達目標	チェーンソーによる安全な伐倒技術の基礎を身につける。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③「伐木等の業務に係る特別教育」（労働安全衛生規則第36条第8号）修了者	
定　　員	各日10名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	一般社団法人フォレスターズフォーラム　片平有信 氏 合同会社新城キッコリーズ　田實健一 氏 岡崎森林組合　大井宣志　氏	
開 催 日	令和８年６月29日(月)、30日（火）、７月１日(水)　（1日×3回実施、いづれか1日受講）	
内　　容	・チェーンソーのメンテナンス方法 ・受口・追口の作り方 ・安全確実な伐倒方法 ・安全な枝払い方法 ・かかり木の処理方法 実習中心。習熟度に合わせて実施。	
教　　材	チェーンソーの操作技能基本トレーニングテキスト（受講者用） （一社）全国林業改良普及協会	
備　　考		

道具のメンテナンス
について学ぶ

目立ての確認

ガンマークの見方を学ぶ

チェーンソーが正しく
扱えているか確認

伐倒方向の確認
狙った位置と合っているか

安全に枝払いを行う練習

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	チェーンソー技術強化研修（伐木競技会事前研修）	A　3
お薦め ポイント	伐木競技会に参加する選手、審判補助員は受講必須！ 安全意識と技術を身に付けるための伐木競技会です。	
背景と目的	チェーンソーを用いた伐木造材作業は、労働災害の危険度が高く、死傷災害の発生率も依然として高い状況にあります。確実で安全なチェーンソーコントロールを身につけることは労働災害防止に役立ちます。	
到達目標	伐木競技会の参加を通して、チェーンソーの安全で確実なコントロール技術を身につける。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③「伐木等の業務に係る特別教育」（労働安全衛生規則第36条第8号）修了者 ※伐木競技会参加者（出場選手・審判補助員）は受講必須	
定　　員	座学・手順：選手等実技20名・審判補助員20名（最少催行人数３名） 実技：各日 選手等実技10名・審判補助員10名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	株式会社ツリークライミングワールド　縣　毅史 氏ほか	
開 催 日	座学・手順：令和８年７月21日（火） 実技：令和８年７月22日（水）または23日（木） （1日×2回実施（初参加7月22日、経験者7月23日）、どちらか1日受講）	
内　　容	・伐木競技会の意義及びルールについて ・チェーンソーコントロールの方法 ・正確な伐倒技術について	
教　　材	県及び講師作成のテキスト	
備　　考	・「座学・手順」は経験者に限りWeb参加可	

伐木競技会の意義
・ルールを学ぶ

切り合わせ輪切りの
気をつけるポイント

受け口を作る際の
ポイントを確認

丸太合わせ輪切り
競技の練習

伐倒競技（簡易方式）
の練習

計測の練習

※講師及び開催日は変更することがあります。

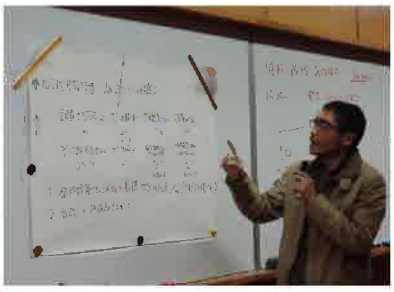
研 修 名	目標林型と育林技術	A　4
お薦め ポイント	現場作業技術だけでなく、森林生態学の視点から森林への理解を深め、 森林所有者への施業提案に生かそう！	
背景と目的	林業・森林施業を行う上で、その森林の整備方針を決めて施業を行う必要があります。森林の育成は自然条件に左右されるため、影響する因子を知った上で判断ができるように、森林生態学の視点も踏まえて目標林型の決め方を学びます。	
到達目標	森林をどう仕立てていくか（目指す森林が目標林型）、環境・生態・経済性の視点から考え方や育林技術を学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者	
定　　員	５名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	森林総合研究所　植物生態研究領域　研究専門員　奥田史郎　氏	
開 催 日	令和８年９月１日（火）	
内　　容	・目標林型を考える ・目標林型に至る施業技術を学ぶ ・現地調査 ・施業提案を行う　} グループワーク	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考		

目標林型について学ぶ

現場へ移動し
班ごとにプロット調査

プロット内毎木調査
樹高を計測

グループごとに
施業案を検討



各班発表

施業提案について
の講評

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	高性能林業機械の活用	A　5
お薦め ポイント	少人数で高性能林業機械を使いこなしている先進事例を学び、 自分の現場に活かそう！	
背景と目的	木材生産において今や高性能林業機械はなくてはならない存在です。より効果的に活用するために、メンテナンスの重要性、現場に適した高性能林業機械等の選択、作業道の配置などの事例を学び、効率的な施業体系構築の考え方を身に付けます。	
到達目標	高性能林業機械を活用した施業システムや性能を発揮するためのメンテナンスを学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者	
定　　員	５名（最少催行人数３名）	
開催場所	静岡県浜松市（フォレストテクニック(株)事務所及び現場）	
講　　師	フォレストテクニック株式会社　吉良達　氏	
開 催 日	令和８年９月４日（金）	
内　　容	・高性能林業機械を使う上での注意 ・効率的な活用事例と路網配置 ・メンテナンスの重要性 ・現地視察	
教　　材		
備　　考		

機械を活かす路網配置

自分たちの現場に合う
規格のトラックを選ぶ

リモコンで動く
フォワーダ

ハーベスタ造材

ロングアームハーベスタ
の活用

ヘッド交換が容易な
オイルクイックの導入

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	伐木技術の向上	A　6
お薦め ポイント	チェーンソーのメンテナンス、伐倒技術は次第に癖が出てきます。安全点検も怠りがちに？！定期的に基本をチェックし見直しましょう。	
背景と目的	チェーンソー使用時は最も災害が多く、重大な事故に繋がります。しっかりメンテナンスしたチェーンソーで、正しい手順で、伐倒作業が出来ているか自分自身を振り返り、安全で確実な伐倒技術を身に付けます。	
到達目標	安全で確実な伐倒技術、チェーンソーのメンテナンス方法の再確認を行う。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③「伐木等の業務に係る特別教育」（労働安全衛生規則第36条第8号）修了者	
定　　員	５名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	一般社団法人フォレスターズフォーラム　片平有信 氏 岡崎森林組合　大井宣志 氏	
開 催 日	令和８年９月８日（火）・９日（水）　２日間	
内　　容	・伐採の手順の再確認 ・チェーンソーのメンテナンスの再確認 ・チェーンソーワークの再確認 ・伐倒技術の再確認	
教　　材		
備　　考		

チェーンソーの
メンテナンス確認

目立てチェック

チェーンソーワーク
の確認

伐倒前の手順再確認
重心方向はどこ？

伐倒手順の
再確認

安全に正しく伐れたか
切り株チェック

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	木材生産コストの構造把握と分析	A　7
お薦めポイント	儲けるためにはコスト意識は必要です！これまでコストなんて気にしたことない方、なぜ上司がコストを気にするか少し考えてみましょう。	
背景と目的	林業を行う上で、森林所有者にどの程度お返しできるかを考えることはとても重要です。収益に影響するもの、固定的にかかる経費、木材販売価格が変わるとどの程度影響があるのか、演習を通して学び、コスト意識を身に付けます。	
到達目標	木材生産プランの立案や現場管理に必須である木材生産コスト管理方法を演習を通じて学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者	
定　　員	５名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	東京農工大学　松本　武　氏	
開 催 日	令和８年９月17日（木）・18日（金）　２日間	
内　　容	・コストとは ・変動費・固定費・損益分岐点 ・コストと生産性 ・生産性の把握 ・森林資源調査・森林評価 ・施業プランの作成 } グループワーク	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考		

コストとは？
を学ぶ

班ごとに道具を持って
現地調査

平均的な林相の所に
プロットを設置

プロット内の調査
胸高直径を測る

班ごとに調査地の
経費･売上見込みを計算

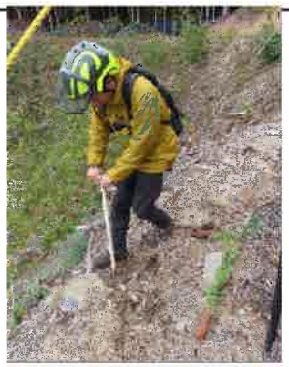
施業プランの
説明と講評

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	植栽と獣害対策	A　8
お薦めポイント	植栽・獣害対策設置を請け負う方、受講必須です。せっかく植えた苗を守れるよう、シカ達の嫌がる獣害対策の設置方法を身に付けましょう！	
背景と目的	循環型林業を進める上で、次の資源確保のため皆伐後の確実に成林させることが重要です。近年主流となっているコンテナ苗の生産と特性、植栽方法を学びます。また植えた苗がしっかり守れるように、野生動物の特性を踏まえた対策を学びます。	
到達目標	主流となったコンテナ苗の植栽とシカ等の特性や獣害対策の要を学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者	
定　　員	５名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県内	
講　　師	植栽：有限会社カワイ製作所職員 獣害対策：元京都大学　准教授　高柳敦　氏	
開 催 日	令和８年11月９日（月）・10日（火）　２日間	
内　　容	【植栽】 ・コンテナ苗の生産方法、特徴、植栽方法 【獣害対策】 ・防護の必要性 ・シカによる森林被害 ・シカ被害から防護する技術 ・維持管理	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	２日目は実習です	

野生動物の特性
人との関わりを学ぶ

コンテナ苗の生産
・特徴について説明



コンテナ苗を植える

支柱のライン取りが
最も重要！

ネット展開時
の注意点を学ぶ

ネットの裾は
もぐりこまれないように固定

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	木材流通と加工	A　9
お薦め ポイント	市場や製材工場の「木材の見方」を知り、 有利販売に必要な工夫を考えましょう。	
背景と目的	木材を販売する上で、材の流通の仕組み、木材市場がどんな役割をしているか、木材加工施設ではどんな加工がされるのかを知り、需要に応じた木材の生産や木材の適切な販売先の選定などを考え、より有利に販売をすることが重要です。	
到達目標	木材の流通、加工から利用までのサプライチェーンを知り、需要の変化に対応した生産体制の必要性を学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者	
定　　員	５名（最少催行人数３名）	
開催場所	三河材流通加工センター（ホルツ三河）	
講　　師	Holz三河　都築則雄氏・山﨑宏明氏 愛知県森林組合連合会　安藤幸志氏・今井俊輔氏	
開 催 日	令和８年11月13日（金）午前	
内　　容	・木材の流通と市場の役割 ・木材市場（現地見学） ・木材加工施設（現地見学）	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	現地見学があります	

ホルツ三河について
経緯と現状

木材市場の見学

出荷時に注意すべき
ポイントの説明

製材工場の見学

材の欠点を除いて繋ぐ
フィンガージョイント

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	森林整備工事の現場管理	A　10
お薦め ポイント	新たに県の森林整備工事の現場管理担当（現場代理人等）になる方、 受講して、適切な現場管理を行いましょう。	
背景と目的	県・市町村から森林整備の工事発注（治山事業、あいち森と緑づくり事業、森林経営管理制度に基づく森林整備等）では森林の整備・現場の管理の両方が必要です。仕事を請け負った際に、適切な現場管理ができるよう注意点を知っておく必要があります。検査時に確認される点を事前に学び、適切な現場管理を行います。	
到達目標	現場管理に活かす森林整備工事の現場を管理する上での確認ポイントや注意点を学び、森林整備入札参加資格の主任技術者の資格取得に繋げる。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者	
定　　員	５名（最少催行人数３名）	
開催場所	三河材流通加工センター（ホルツ三河）及び新城市内	
講　　師	愛知県農林基盤局農地部農林総務課職員	
開 催 日	令和８年11月13日（金）午後	
内　　容	・県発注森林整備工事の現場の管理 ・検査時の確認事項	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	現地見学があります	

検査時の確認点
を学ぶ

過去の森林整備工事
現地での確認

伐倒木管理の
ナンバーテープ確認
（検査時の確認）

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	林業現場技能者育成研修	A　11
お薦めポイント	新たに愛知県の森林整備入札参加資格の取得を目指す林業経営体、現場管理者は必ず受講してください。	
背景と目的	森林資源を有効に活用し、木材生産量を拡大して行くためには、「循環型林業」を推進する必要があります。特に現場において、施業の集約化、最適な作業システムによる木材生産、皆伐とその後の更新を行うためには、林業全般に関する専門的かつ総合的な知識・技術・技能等が必要です。	
到達目標	森林整備工事参加資格要件の１つ、主任技術者の資格取得を通じ、林業全般に関する専門的な知識・技術を身につける。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③「伐木等の業務に係る特別教育」（労働安全衛生規則第36条第8号）修了者 ④概ね１年以上の実務経験を有する現場技能者 ⑤「車両系建設機械（機体質量３トン以上）運転技能講習（整地・運搬・積込み・掘削用機械）」修了者	
定　　員	５名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター　他	

内容		科　目	内　容	講　師	開催日
	1	【A4】 目標林型と育林技術	森林をどう仕立てていくか、環境・生態・経済性の視点から考え方や育林技術を学ぶ	森林総合研究所 奥田史郎　氏	9/ 1(火)
	2	【A5】 高性能林業機械の活用	高性能林業機械を活用した施業システムや性能を発揮するためのメンテナンスを学ぶ	フォレストテクニック株式会社　吉良達　氏	9/ 4(金)
	3	【A6】 伐木技術の向上	安全で確実な伐倒技術、チェーンソーのメンテナンス方法の再確認を行う	一般社団法人フォレスターズフォーラム 片平有信 氏 岡崎森林組合 大井宣志 氏	9/ 8(火) 9/ 9(水)
	4	【A7】 木材生産コストの構造把握と分析	木材生産プランの立案や現場管理に必須である木材生産コスト管理方法を演習を通じて学ぶ	東京農工大学 松本武　氏	9/17(木) 9/18(金)
	5	【A8】 植栽と獣害対策	主流となったコンテナ苗の植栽とシカ等の特性や獣害対策の要を学ぶ	有限会社カワイ製作所職員 元京都大学　准教授 高柳敦　氏	11/ 9(月) 11/10(火)
	6	【A9】 木材流通と加工	木材の流通、加工から利用までのサプライチェーンを知り、需要の変化に対応した生産体制の必要性を学ぶ	Holz三河 都築則雄氏・山崎宏明氏 愛知県森林組合連合会 安藤幸志氏・今井俊輔氏	11/13(金) 午前
	7	【A10】 森林整備工事の現場管理	現場管理に活かす森林整備工事の現場を管理する上での確認ポイントや注意点を学ぶ	愛知県農林基盤局 農地部農林総務課職員	11/13(金) 午後
	8	【F3】 林業架線技術	機械集材装置運転特別教育を受講	林災防愛知県支部	11/24(火) 11/25(水)
	9	【F7】 危機管理	リスクアセスメントの基礎知識を学び、実践的な演習を行う	林災防愛知県支部	11/27(金)

教　　材	科目による
備　　考	科目８・９：林災防の講習受講。修了証の写しを提示すればその科目は免除されます。 科目１・２・４：フォレストリーダーで受講済みの方は免除。 A4～A10＋F3+F7の全科目修了者に修了証を交付します

②－1　中堅コース（伐木技術）

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	林業安全技術訓練（チェーンソー技術）　②中級	B　1
お薦め ポイント	チェーンソーのメンテナンスや伐倒について、後輩の「なぜこの角度？」「なぜこれが必要？」に理論的に説明できる？怪しい方はぜひ受講を。 自分の理解度を知ることができ、後輩指導に役立ちます。	
背景と目的	チェーンソーを用いた伐木造材作業は、労働災害の危険度が高く、死傷災害の発生率も依然として高い状況にあります。伐木造材作業は、安全な伐倒技術を身につけ、定期的にチェックすることが大切です。	
到達目標	チェーンソーの取扱、伐倒方法を再点検し、自己流を正すとともに、指導者としての教え方を学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③「伐木等の業務に係る特別教育」（労働安全衛生規則第36条第8号）修了者 ④伐木造材作業の従事経験が５年以上の者	
定　　員	各日10名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	株式会社アーバンフォレストリー　吉見次郎　氏	
開 催 日	令和８年10月５日(月)または10月６日(火)　（1日×2回実施、どちらか1日受講）	
内　　容	・チェーンソーの取扱、メンテナンスの指導方法 ・安全な伐倒の指導方法 ※実際に指導することを念頭に、実習主体で行う。	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考		

座学にて基礎の復習

チェーンソーのメンテナンス
項目を確認

ペアになり選木・伐倒方向
指導の仕方を学ぶ

ペアで受け口・追い口の
作り方を教える練習

かかり木処理を
教える練習

切り株チェック！バーの入れ方や
ツルの役割の解説の仕方を学ぶ

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	アーボリカルチャー技術習得研修　ロープクライミングとリギング（初級）	B　2
お薦め ポイント	現場毎に大きく異なる作業条件。高所作業車やクレーンが入れない場所で枝落としや伐採する際にはロープクライミングとリギングが必要。 枝を安全に伐り下ろす手順を考え、実行します。	
背景と目的	近年、公道沿い等で高度な技術が必要とされる作業が増加しています。特に樹上作業においては、アーボリカルチャー技術の一部であるロープクライミングとリギングを習得することで、より安全・効率的に作業することができます。	
到達目標	ロープクライミング（ロープを利用し木に登る技術等）やリギング（伐った枝や幹を地上に安全に降ろすための技術）の基礎を学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③「伐木等の業務に係る特別教育」（労働安全衛生規則第36条第8号）修了者 ※初めて受講される方を優先します。	
定　　員	12名（最少催行人数４名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	株式会社アーバンフォレストリー　吉見次郎　氏	
開 催 日	令和８年４月13日（月）～17日（金）：５日間	
内容 講義	・機材の解説と使用方法 ・ツリークライミングの基本 ・リギングテクニックとは ・ロープ高所作業特別教育	
内容 実技	・ロープワーク・ツリークライミング技術の基礎習得 ・グループワーク（チーム毎に伐採システムを検討し、実践する）	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	（株）アーバンフォレストリーより「ロープ高所作業特別教育」の修了証が交付されます。初級とはいえ、研修ペースがかなり速いので覚悟して受講してください。	

スローラインの扱い方を学ぶ

ロープワークの基礎習得

ツリークライミングの基礎

伐採システムを検討

システムの設置

実践・樹上の伐採

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	アーボリカルチャー技術習得研修　リギング（中級）	B　3
お薦め ポイント	研修生チームで、初級より大きく重い枝・幹を安全に伐り下ろします。 レベルアップしたい方、ぜひ受講してください！	
背景と目的	近年、公道沿い等で高度な技術が必要とされる作業が増加しています。特に樹上作業においては、アーボリカルチャー技術のひとつであるリギングが有効です。本研修では初級受講済者を対象に多様な現場に対応するためのスキルアップを目指します。	
到達目標	リギング技術の応用編。基礎を再確認し、より難しい場面への対応を学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③「伐木等の業務に係る特別教育」（労働安全衛生規則第36条第8号）修了者 ④過去に当センター主催の「アーボリカルチャー技術の習得研修」を受講した者 ⑤伐木造材作業の従事経験が５年以上かつ、通常業務で特殊伐採に従事している者	
定　　員	９名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	株式会社アーバンフォレストリー　吉見次郎　氏	
開 催 日	令和８年５月12日（火）～14日（木）：３日間	
内　　容 (実習主体)	・リギングに必要な力学の知識 ・樹上伐採のためのチェーンソーワーク ・グループワーク（チーム毎に伐採システムを検討し、実践する）	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	ロープクライミングが出来ること又はグランド担当が出来ることは必須です	

座学

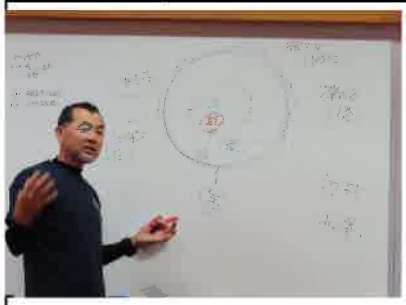
システムを検討

システムの設置

チームで協力しロープを張り、太い枝・幹をカットし、安全に目的の場所へ下ろす

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	かかり木処理・枯損木伐倒技術研修	B　4
お薦めポイント	森林整備等でかかり木処理をする・枯れ木を伐る方はぜひ受講を！ 樹木医でもある講師による枯れの判断基準や危険度を知ることや、安全なかかり木処理の方法は絶対に勉強になります。	
背景と目的	近年、かかり木処理や枯損木の伐採時における労働災害の増加しています。 かかり木処理と枯損木の伐倒には、健全木以上に対象を観察し、伐採計画を立てることが安全確保に繋がります。	
到達目標	発生することが多く重大な事故の原因となるかかり木や枯損木の安全な処理・伐倒方法を学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③「伐木等の業務に係る特別教育」（労働安全衛生規則第36条第8号）修了者 ④伐木造材作業の従事経験が５年以上の者	
定　　員	各日６名（最少催行人数３名）×２回　※A・B日程の内容は同じです	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター、愛知県民の森ほか	
講　　師	株式会社アーバンフォレストリー　吉見次郎　氏	
開 催 日	【A日程】令和８年６月１日（月）・６月２日（火）：２日間 【B日程】令和８年６月３日（水）・６月４日（木）：２日間 内容は同じです	
内容　講義	・伐採作業着手前の準備（伐採木の調査、作業計画の作成、伐倒方向と作業手順の検討）について ・枯損木の状態診断のポイント ・枯損木・かかり木処理に必要な力学の知識 ・伐採作業の禁忌事項について	
内容　実技	・チェーンソーの整備・点検 ・枯損木の伐倒実習 ・かかり木処理実習	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考		


座学にて樹木の特質を復習

道具のメンテナンスも確認

受け口でも枯損状況を確認

かかり木を作り、

現場に応じ、最も安全で確実な方法で外す

②－2　中堅コース（木材生産技術）

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	路網作設技能者育成研修	C　1
お薦め ポイント	ベテラン講師に聞きながら、実際に抜根作業や作業道作りをします。 道作りで疑問のある方、不慣れな方、ぜひ受講を！	
背景と目的	木材を安定的に供給し、森林の有する多面的機能を持続的に発揮していくためには造林、保育、素材生産等の施業を効率的に行うことが必要です。森林において、「路網」はこうした施業を効率的に行うためのネットワークであり、林業のもっとも重要な生産基盤です。本研修では簡易で丈夫な森林作業道を作設する現場技能者の育成を図ります。	
到達目標	路網計画は作業システムの効率を左右するため、簡易で丈夫、かつ環境に配慮した路網作設の知識・技術を学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③「伐木等の業務に係る特別教育」（労働安全衛生規則第36条第8号）修了者 ④所属する林業経営体において、作業道の作設作業を担当する現場技能者（オペレーター） ⑤「車両系建設機械（機体質量３トン以上）運転技能講習（整地・運搬・積込み・掘削用機械）」修了者 ⑥作業道の作設経験が50時間以上、または100m以上の作設経験を有する者	
定　　員	５名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター　他	

内容		科　目	内　容	講　師	開催日
	1	路網配置計画の作成、路線設計・作設の方法	【講義及び現地踏査】 効率的な作業システムを構築する上での基本的な考え方 路網配置計画の作成、路線設計、作設の具体的方法と留意事項	株式会社中部森林技術コンサルタンツ　黒田真一　氏	8/18(火)
	2	先進事例視察	効率的な搬出のための作業道開設手法、土砂流出を最低限にするための工夫など、天竜川流域の施工事例を紹介	フォレストテクニック株式会社　吉良達　氏	8/21(金)
	3	作業道作設実習	【実習】 現地踏査、支障木伐採、基本土工、応用土工等	松寿建設株式会社／豊田森林組合理事　伊藤浩二　氏	10/13(火) ～15(木)

教　　材	科目による
備　　考	科目１：【G４③】森林・林業業務推進研修（③路網整備の技術や実務）と同日開催。

路網設計(地形図に道を入れる)

現地踏査

バックホウで作業道を作設

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	林業架線作業主任者育成研修	C　2
お薦め ポイント	タワーヤーダや集材機等を使う現場には林業架線作業主任者の常駐が必要。 長期の研修ですが、架線現場の班長・担当者は受講必須です！ あわせてフルハーネスの特別教育も修了しておきましょう。	
背景と目的	車両系機械での集材作業が困難な急傾斜地等においては、架線集材による効率的な作業システムが必要となります。機械集材装置や運材索道の組み立て、解体等の作業、及び機械集材装置や運材索道を用いた集運材の作業を行う場合は、林業架線作業主任者免許を受けた者から作業主任者を選任しなければならないと労働安全衛生規則で定められています。 また高所での作業でフルハーネスを使用する場合は特別教育を受けなくてはなりません。	
到達目標	これから増える大径木や皆伐現場での運の案に用いられる集材機を用いた現場において、一定規模の架線集材で常駐が必要である林業架線作業主任者免許の取得を目指す。フルハーネス型墜落抑止用器具の特別教育を修了する。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③フルハーネス特別教育については林業架線業務に携わっている者	
定　　員	10名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	林業架線技士　　株式会社緑豊　天野昭浩 氏 社会保険労務士　森川郁彦 氏 愛知県森林・林業技術センター職員 一般財団法人中小建設業特別教育協会　満田守雄 氏	
開 催 日	【講義】6/12(金)、6/15(月)～6/19(金)、6/22(月)・6/23(火)　（８日：53時間） 【フルハーネス型墜落制止用器具特別教育】7/24（金）　（１日：６時間） 【実技】7/27(月)～7/30(木)、8/ 3(月)～8/ 7(金)　（９日：59時間）	
内容　講義	関係法令、機械集材装置及び運材索道、林業架線作業に関する知識、 林業架線作業に必要な力学に関する知識（修了試験あり）	
内容　フルハーネス	高所でフルハーネス型墜落抑止用器具を装着して作業を行うための特別教育	
内容　実技	索張り及び控えの取り方並びに点検、支柱・搬台等の作り方及び点検、 機械集材装置及び運材索道の主要機器の据え付け方法及び点検、 主索の安全係数の点検、鋼索の止め方及び継ぎ方、重量目測、荷かけ及び荷外し、 運転実習、撤収	
教　　材	・林業架線作業主任者テキスト（林業・木材製造業労働災害防止協会） ・配付資料	
備　　考	・本研修修了者は、林業架線作業の実務経験が２年以上あれば、林業架線作業主任者免許の取得申請が可能です。 ・フルハーネス型墜落制止用器具の特別教育のみ受講の場合、上記は対象外です。 ※令和８年度より２年に１回の開催となります。	

先柱･元柱の設置

運材索道の組み立て実習

集材機の運転実習

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	林業ICT技術研修（森林クラウドシステム基礎操作）	C　3
お薦めポイント	意欲と能力のある林業経営体・認定事業体は愛知県の森林クラウドシステムが利用できます。まずは基本操作を覚えましょう。	
背景と目的	愛知県では、令和３年度末に森林のある全市町村の航空レーザデータの解析を終了しました。この解析データは、森林資源量の把握、林道・作業道の開設計画、境界確定のための基礎資料等に活用することができます。本研修では、このようなデータの活用やICTの知識を持つ技術者の育成を図ります。	
到達目標	木材生産現場候補地の選定や、地形の把握、森林境界の推定等に有利な森林クラウドシステムの基本操作とデータの活用方法を学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者	
定　　員	15名（最少催行人数５名）	
開催場所	名古屋市内を予定	
講　　師	アジア航測株式会社　職員	
開 催 日	令和８年８月27日（木）	
内　　容	航空レーザデータの概要説明 パソコンを操作しながら森林クラウドシステムでの航空レーザデータの活用方法を学ぶ	
教　　材	講師作成の配布資料	
備　　考	PC操作あり	

航空レーザデータ計測
等についての座学

PCを操作しながら
活用方法を学ぶ

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	林業ICT技術研修（県内取組事例）	C　4
お薦め ポイント	林業ICTって何？意外と身近です。すでに現場で使っている事例を紹介。 自社に導入する際の参考にしてください。	
背景と目的	林業経営体の多くは一度に多くの担い手を増やすことは困難であり、現場作業・事務問わず効率を上げて事業量を拡大していくためには、スマート林業ツールの普及と定着が必要です。愛知県では、コンサルと林業経営体が一緒に自社に必要なICT林業技術に取り組む「ICT林業経営体支援業務」を行っています。本研修ではこのようなICTの知識を持つ技術者の育成を図ります。	
到達目標	ICT技術を導入し効率化した県内事例の紹介。ICTの有効性・自社への応用について考える。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者	
定　　員	15名（最少催行人数５名）	
開催場所	岡崎市内を予定	
講　　師	愛知県農林基盤局林務部林務課職員 NBCコンサルタンツ株式会社　大津元希氏 株式会社リフォレスター　佐野新太郎氏 株式会社フォルテ森林技術経営研究所　中尾友一氏	
開 催 日	令和８年８月28日（金）	
内　　容	・愛知県のスマート林業の取組（概要） ・R7に取り組んだ「ICT林業経営体支援業務」３事例の紹介	
教　　材	講師作成の配布資料	
備　　考	R8は【D2】意欲と能力のある林業経営体育成研修と併催	

（写真はイメージです）
スマート林業についての講義（2025）

③指導者コース

※講師及び開催日は変更することがあります。

研修名	伐木技術指導者育成研修	D　1
お薦めポイント	自分と後輩は別人格です。考え方・感じ方も違います。自身の得意な点や考え方の癖を知り、後輩にどう伝えたら伝わりやすいか、放任すぎ？過保護？もチェック！後輩指導に悩んでいる方、ぜひ受講してください。	
背景と目的	森林整備や木材生産活動において、チェーンソー作業は重要な役割を果たしています。そのため、チェーンソー作業を行う現場技能者の育成とともに、それを指導する人材の育成が欠かせません。本研修では伐倒技術の向上と指導者の育成を図ります。	
到達目標	自分自身の性格・興味の傾向を把握し、コミュニケーションの注意点を学ぶ。伐倒技術と労働安全について再確認し、知識・技術を後輩等に伝える方法を学び、指導者としての実力を身につける。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③「伐木等の業務に係る特別教育」（労働安全衛生規則第36条第8号）修了者 ④伐木造材作業の従事経験が概ね５年以上で、現在または今後指導を予定している者	
定員	６名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講師	一般社団法人林業技能教育研究所　飛田京子氏・飛田俊彦氏	
開催日	令和８年５月25日（月）～27日（水）	
内容　講義	【１日目】 （１）知識と経験の再確認 ・安全に仕事をするために必要な、法令やチェーンソー取扱についての知識をアップデートする。 ・指導に活かすため、自身のキャリアを振り返り、自己理解を深め、目標を整理する。	
内容　実技	【２・３日目】 （２）自身のチェーンソー操作技能をトレーニング STEP1　客観的に評価（数値等で） STEP2　観察（自身及び第三者の目で） STEP3　もう一度学ぶ 繰り返す。 （３）指導の実践 ・（２）のSTEP１～３を用いて、実際に指導する。	
教材	講師作成のテキスト	
備考	３日目のみ、受講生が所属する林業経営体の実務経験５年未満の方と一緒にご参加頂きます。	

自身のキャリアを振り返り
自己理解・目標を整理

受口、追口作成指導時の
ポイントを確認

指導実習　数値で客観的に評価し、
相手に改善点を伝える

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	意欲と能力のある林業経営体育成研修	D　2
お薦め ポイント	林業ICT技術の導入には経営に携わる方の理解と後押しが必須です。 県内林業経営体での取組を知り、自社の改善の参考にしてください。	
背景と目的	平成31年４月にスタートした森林経営管理制度の担い手である林業経営体には、森林の経営管理の集積・集約化を推進し、労働生産性を高めていくことが求められています。また、木材の生産を強化し、収益力を高めていくこともますます重要になってきています。これらに取り組み、持続的な林業経営を行っていくためには、経営基盤の強化が必要です。本研修では、的確な経営判断ができる経営者の育成を図ります。	
到達目標	林業経営体の管理職・役職員向け研修。自社を取り巻く経営環境の分析と抱える課題の抽出と解決方法、労働安全対策の追求について学ぶ。	
受講要件	①愛知県内の林業経営体に所属し、役職員等経営に携わる者。	
定　　員	20名（最少催行人数10名）	
開催場所	岡崎市内を予定	
講　　師	未定	
開 催 日	令和８年８月28日（金）	
内　　容	林業ICT技術（県内取組事例）	
教　　材	講師作成資料	
備　　考	・R8は【C4】林業ICT技術研修（県内取組事例）と併催	

人材確保の取組紹介(2025)

④救命救急・安全技術

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	野外レスキュー研修	E　1
お薦め ポイント	事故があった時、助けられるのは現場にいる仲間だけです。万が一に備え、仲間のために、自分自身のために、ぜひ受講してください。 忘れないように何年かに一度の受講もお薦めです。	
背景と目的	林業は、他産業に比べて危険度が高く、突出して事故の多い業種です。事故を未然に防ぐのが第一ですが、万一事故が起こったときのために、野外救急法の知識を身につけることが、救命率を高め、速やかな救助に繋がります。　また、野外救急技術は、繰り返しトレーニングすることが大切です。	
到達目標	交通や通信が不便なことが多い林業の現場で、事故が発生した際の迅速で適切な対応について学ぶ。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者	
定　　員	15名（最少催行人数７名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	一般社団法人ウィルダネスメディカルアソシエイツジャパン（WMAJ） 　アメリカ発祥のWilderness Medical Associates International（WMAI）の講習を日本で実施する機関です。WMAIの講習は世界31ヶ国で実施されています。	
開 催 日	【講義（E-ラーニング）】 　令和８年５月29（金）～６月４日（木）の間に４時間、各自のペースで受講 【実技（集合研修）】 　令和８年６月５日（金）（８時間）	
内容　講義	野外救急法の必要性、救助要請に時間がかかる現場で必要な人体の知識、命の緊急事態に対応する救命処置法の紹介	
内容　実技	事故・災害による傷病者の評価方法と措置、事故現場を想定したシミュレーショントレーニング	
教　　材	講師作成のテキスト	
受講料	無料	
備　　考	【カリキュラムの特徴】 ・野外救急法：救急車や救助隊がすぐに来られない、病院までのアクセスに長い時間を要する状況で、人体の構造に基づいた判断をし、環境が人体に与える影響を考慮した処置を行う　画期的な救急法。 ・座学を通じて頭で理論的に理解し、次いで実技を通じ体で覚える学習スタイル。 ・令和５年度から、より林業の現場に即した実践的な内容に拡充。	

切り傷の応急処置対応を学ぶ

骨折等の
応急処置方法を練習

事故現場を想定した
シミュレーショントレーニング

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	伐木安全技術研修会（伐木競技会）	E　2
お薦めポイント	伐木競技会に向けて繰り返し練習することで、安全操作の意識付け・身体で覚えることができます。これ、現場でも役に立ちます！	
背景と目的	チェーンソーを用いた伐木造材作業は、労働災害の危険度が高く、死傷災害の発生率も依然として高い状況にあります。林業現場技能者の林業技術及び安全作業意識の向上を図り、「林業労働災害ゼロ」の達成を目指すと共に、新規林業就業者の確保にむけた林業の魅力ある発信を目的として伐木競技会を実施します。	
到達目標	伐木競技会への参加を通じ、安全への意識と技術を身につける。	
受講要件	①愛知県内で、森林・林業に携わっている者 ②研修期間中も労働災害保険の適用を受けている者 ③「伐木等の業務に係る特別教育」（労働安全衛生規則第36条第8号）修了者	
定　　員	15名（最少催行人数10名）	
開催場所	未定（愛知県内）	
講　　師	株式会社ツリークライミングワールド　縣　毅史 氏ほか	
開 催 日	令和８年秋（１日を予定）	
内　　容	・チェーンソーコントロールの確認 ・正確な伐倒技術の確認	
教　　材	チェーンソー技術強化研修資料を参照	
備　　考	別途、伐木安全技術研修会（伐木競技会）への申込が必要	

開会式

デモンストレーション

伐倒競技（マストツリー）

伐倒競技（マストツリー）の計測

丸太合わせ輪切り

表彰式

(2) 労働安全衛生研修

労働安全衛生研修は、林業・木材製造業労働災害防止協会愛知県支部と共催で実施します。
各講習の受講申込み、問合せ先は林業・木材製造業労働災害防止協会愛知県支部です。

〒460-0017 愛知県名古屋市中区松原2-18-10　　TEL 052-331-9386
FAX 052-322-3376

NO.	科目名	内　　容	定員/回	研修日数	開催予定日
F1	刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育	刈払作業に関する知識、刈払機に関する知識及び技術の習得。 【学科】５時間　【実技】１時間	各40	1	4/28（火） 9/16（水） 3/17（水）
F2	伐木等の業務に係る特別教育 （チェーンソー講習）	伐木造材に関する知識、チェーンソーに関する知識及び技術の習得。 【学科】９時間　【実技】９時間	各40	4	4/ 8～10（水～金） 6/24～26（水～金） 9/28～30（月～水） 10/28～30（水～金） 3/ 3～ 5（水～金）
F3	機械集材装置運転特別教育	動力を用いて原木等を巻き上げ、空中において運搬する設備に関する知識及び技術の習得。 【学科】６時間　【実技】８時間	30	2	学科：11/24(火) 実技：11/25(水)
F4	走行集材機械 （フォワーダ等） 運転業務特別教育	フォワーダ等に関する知識及び技術の習得。 【学科】６時間　【実技】６時間 ※当センターでの開催は学科のみ。	10	2	学科：7/14(火) 実技：9/10(木)
F5	簡易架線集材装置・架線集材機械 （スイングヤーダ等） 運転業務特別教育	スイングヤーダ等に関する知識及び技術の習得。 【学科】６時間　【実技】８時間 ※当センターでの開催は学科と実技の一部（ﾜｰﾔｰﾛｰﾌﾟの取扱）のみ。	10	3	学科：7/16(木) 実技(ﾜｲﾔｰ)：9/ 2(水) (操作)：9/ 3(木)
F6	伐木等機械 （ハーベスタ等） 運転業務特別教育	ハーベスタ等に関する知識及び技術の習得。 【学科】６時間　【実技】６時間 ※当センターでの開催は学科のみ。	10	2	学科：7/15(水) 実技：8/20(木)
F7	危機管理 リスクアセスメント	林業におけるリスクアセスメント担当者に必要な知識及び技術の習得。 【学科】４時間	40	1	11/27（金）
F8	伐木等の業務に係る特別教育修了者再教育	チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドラインに基づく伐木等業務特別教育修了者対象の再教育。 【学科】6.5時間	40	1	12/16（水）
F9	高性能林業機械運転業務講習会（再教育）	高性能林業機械運転業務に関する労働災害をなくすため、再教育を実施。 【学科のみ】各６時間	20	各1	走行集材機械：7/14(火) 伐木等機械：7/15(水) 簡易架線集材機械：7/16(木)

※開催日は変更することがあります。

詳細、募集状況は林業・木材製造業労働災害防止協会愛知県支部HPでご確認ください。

http://airinsai.server-shared.com/

林災防　愛知県支部

２　行政職員研修

（１）　市町村職員技術習得研修

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	森林・林業等基礎研修	G　1
お薦め ポイント	今年度、林務担当になった方、必ず受講してください。 愛知県の現在の林務関係施策などお伝えします。	
背景と目的	森林・林業の役割や森林の果たす多面的機能を理解し、本県の現状に合った施策を進めていくことが必要です。 本研修では、森林・林業の基礎知識の習得、国や県が進める林業施策（森林経営管理法、森林環境譲与税等）、木材利用の動向等について学びます。	
到達目標	森林・林業に関する法令・施策を知り、理解するための知識を幅広く学ぶ。	
受講要件	市町村職員等	
定　　員	50名（最少催行人数10名）	
開催場所	名古屋市内を予定	
講　　師	愛知県農林基盤局林務部林務課職員	
研修日程	令和８年５月11日（月）	
内　　容	・林務行政に必要な森林、林業に関する基礎知識の習得 ・国や県が進める林業施策（森林経営管理法、森林環境譲与税等） ・木材利用の動向等	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	WEB参加可能です	

研 修 名	測量等基礎研修	G　2
お薦め ポイント	森林整備の委託・工事担当、補助金の担当など検査で面積確認する方、事業地の面積を測量する必要がある方、ぜひ受講してください。 測量の基本とポケットコンパスの操作を覚えましょう！	
背景と目的	測量技術は、森林の形状や広さなど、林業施策を推進する上で必要な基礎情報を得るために不可欠な技術です。	
到達目標	森林経営管理法などによる森林整備の委託や工事発注をする際、検査等に必要な測量等の基礎知識を学ぶ。	
受講要件	市町村職員等	
定　　員	10名（最少催行人数３名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	愛知県森林・林業技術センター職員	
開 催 日	令和８年６月10日（水）	
内　講義	・測量等の基礎知識の習得	
容　実習	・平面測量・水準測量・横断測量の実習・図化	
教　　材	講師作成のテキスト	

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	森林・林業業務推進研修 （①調査方法　②検査・設計業務　③路網整備の技術と実務）	G　3
お薦め ポイント	森林整備の委託や工事を担当される方、ぜひ受講してください。 森林整備の委託や工事発注に必要な調査・設計・検査の方法を学び、工事発注に活かせます。路網計画の基本も学べます。	
背景と目的	令和元年度から、森林環境譲与税が森林の無い市町村も含めた全ての市町村へ譲与が開始され、その使途は「森林整備（間伐、新たな森林経営管理制度に要する費用など）及びその促進（人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発）に関する施策」に要する費用に充てなければならないとされています。 このため、市町村職員等を対象に、林業施策を検討するための森林資源調査方法、路網配置計画や設計・施工方法、円滑な森林整備工事の施工に向けた知識・技術を習得する研修を実施します。	
到達目標	森林資源調査方法、森林整備事業の設計・積算方法、監督・検査業務の留意事項、路網配置計画の作成、路線設計・作設の方法の習得。	
受講要件	市町村職員等	
定　　員	各15名（最少催行人数各５名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	①　（株）中部森林技術コンサルタンツ　真柄泰央　氏ほか ②　愛知県農林基盤局農地部農林総務課職員 ③　（株）中部森林技術コンサルタンツ　黒田真一　氏ほか	
開 催 日	①　令和８年７月７日（火） ②　令和８年７月９日（木） ③　令和８年８月18日（火）	
内　　容	①（調査方法）森林資源の調査や整備方法、施業方針についての知識と技術の習得 ②（検査・設計業務）森林整備事業の設計、積算方法、監督・検査業務について ③（路網整備の技術と実務）効率的な作業システムを構築する上での基本的な考え方、路網配置計画の作成、路線設計、作設の具体的方法と留意事項	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	③：【C1】路網作設技能者育成研修「路網配置計画の作成、路線設計・作設の方法」と同日開催。 ①②③：【G6】地域林政アドバイザー研修必須科目。	

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	森林管理研修（①森林経営管理法）	G　４①
お薦め ポイント	林野庁より森林環境譲与税の活用例、森林経営管理制度の実例などを紹介。 ぜひ自身の市町村での活用方法の参考としてください。	
背景と目的	平成31年度から、森林経営管理法が施行され、森林経営管理制度の下で、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の取組を、それぞれの市町村が地域の実情に応じて実施できることとなっています。 本研修では、森林経営管理制度の目的・内容、意向調査から経営管理実施権配分計画策定までの流れ、制度の活用事例などを学びます。	
到達目標	森林経営管理制度の目的・内容、意向調査から経営管理実施権配分計画策定までの流れ等を把握する。	
受講要件	市町村職員等	
定　　員	20名（最少催行人数５名）	
開催場所	岡崎市内（西三河総合庁舎）を予定	
講　　師	林野庁職員（予定）	
開 催 日	令和８年７月上旬	
内　　容	・森林経営管理法及び森林経営管理制度の目的と内容 ・意向調査から経営管理実施権配分計画策定までの流れ ・所有者不明森林の特例措置及び対応等について ・森林経営管理制度活用事例の紹介	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	【G6】地域林政アドバイザー研修必須科目	

研 修 名	森林管理研修（②林業ICT技術（森林クラウドシステム基礎操作研修））	G　４②
お薦め ポイント	森林クラウドシステムを触ったことのない方、新しく森林計画担当になった方、ぜひ受講してください。まずは基本操作を覚えましょう。	
背景と目的	愛知県では、林業におけるICT技術の普及を進めており、令和３年度末に森林のある全市町村の航空レーザデータの解析を終了しました。この解析データは、森林資源量の把握、林道・作業道の開設計画、境界確定のための基礎資料等に活用することができます。本研修では、森林クラウドシステムの基礎操作を学びます。	
到達目標	森林簿・森林計画図など森林情報の確認、路網計画のための地形の把握、森林境界の推定等に有利な森林クラウドシステムの基本操作方法を学ぶ。	
受講要件	市町村職員等	
定　　員	各15名（最少催行人数５名）	
開催場所	名古屋市内を予定	
講　　師	アジア航測株式会社　職員	
開 催 日	令和８年５月19日（火）	
内　　容	航空レーザデータの解析データを用いた ・森林資源量の把握の方法 ・林道・作業道の開設計画の作成 ・境界確定のための基礎資料の収集	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	パソコン操作あり	

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	無人航空機（ドローン）基礎知識【新規】	G　5
お薦め ポイント	ドローンが所属・会社にある方、受講してください。法改正が進み、罰則等も強化中！まず所有・使用する際に必須なことを学びます。	
背景と目的	森林の現況や災害時の把握のため無人航空機（ドローン）の利用が進んでいます。無人航空機（ドローン）を取り巻く制度・手続き等は日々変化しています。撮影等に使用する際の最新の法令・ルールを学びます。	
到達目標	普及に伴い改正が重ねられているドローンに関する法令と使用上の注意点について学ぶ。	
受講要件	市町村職員等	
定　　員	20名（最少催行人数４名）	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	ユタカコーポレーション株式会社 ドローン事業部　藤原康正氏	
開 催 日	令和８年５月18日（月）	
内　容	・無人航空機（ドローン）を安全に飛行させるために必要な基礎知識、 関係法律、必要な手続き	
教　　材	講師作成のテキスト	
備考	本研修で研修生の操作（実技）はありません	

研 修 名	森林吸収源対策実務者研修	G　7
お薦め ポイント	「J-クレジット」の対象となる森林や申請手続きなどを詳しく知りたい方、ぜひ受講してください。申請経験者が実例をもとに説明します。	
背景と目的	林業経営の新たな収入源として、森林由来の温室効果ガス吸収量をクレジットとして取引できる「J-クレジット制度」の活用が注目を集めています。 本研修では、J-クレジット制度における森林経営活動方法論について、制度の概要やクレジット創出のための書類作成方法など基礎的な内容を学びます。	
到達目標	森林整備促進のツールとして注目されるJ-クレジット制度に関する基礎知識を学ぶ。	
受講要件	市町村職員等	
定　　員	15名（最少催行人数３名）	
開催場所	自治センター（名古屋市中区三の丸）	
講　　師	アジア航測株式会社　職員	
開 催 日	令和８年８月25日（火）	
内　　容	・J-クレジット制度概要 ・森林経営活動方法論の特徴 ・申請書類作成	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	パソコン操作あり	

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	地域林政アドバイザー研修	G　6
お薦めポイント	自分の市町村の森林計画を考えるため、地域の市町村の森林管理のアドバイスのため、必要な基本事項を学びます。 全ての科目を修了し「地域林政アドバイザー」として登録しましょう。	
背景と目的	民有林行政において、地域に密着した行政主体である市町村の役割は年々重要性を増しており、その内容も徐々に高度化しています。 平成31年度からは、森林環境譲与税の譲与が開始され、また森林経営管理制度の下で、間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の取組を、それぞれの市町村が地域の実情に応じて実施できることとなりました。 本研修では、今後、森林資源の成熟を、地域の林業・木材産業の成長産業化、地方創生につなげていくために地域林政を支援するアドバイザーを養成します。	
到達目標	地域林政アドバイザーに必要な知識・技術の習得し、修了証を得る。	
受講要件	市町村職員等	
定　　員	10名（最少催行人数３名）	
開催場所	科目による	
講　　師	科目による	
開 催 日	科目１・３・５（※１：令和８年７月上旬（１日程度）） 科目２　※１とG４①を受講 科目４　G３①②③を受講	

内容	科目		詳細	開催日
	1	森林計画制度、森林法令（1.5h）	森林計画制度、森林法令（市町村森林整備計画、伐採及び伐採届出後の造林届出等制度、森林の土地所有者届出制度、林地開発許可制度、保安林制度）の目的・内容について	※１
	2	森林経営管理制度（4.5h）	森林経営管理制度の目的・内容について	※１＋G４①を受講
	3	森林経営（1h）	森林経営における森林経営計画制度、境界明確化、施業集約化の目的・内容について	※１
	4	森林整備（17h）	森林整備における伐採、造林及び路網整備の技術や実務について	G３①②③を受講
	5	森林情報の活用（0.5h）	森林情報（林地台帳の整備・運用、森林GIS）の活用について	※１

教　　材	科目による
備　　考	・※１については、森林計画業務研修（農林基盤局林務部林務課 企画・森林計画グループ主催）を受講してください。 ・科目２は※１とG４①、科目４はG３①②③各々受講してください。 ・全科目の修了により、地域林政アドバイザー活用推進要綱に基づく研修修了証を交付します。

（２） 林業普及指導研修

※講師及び開催日は変更することがあります。

研修名	新任林業普及指導員研修★	G　8
背景と目的	林業普及指導員は、林業普及指導事業を担うため、森林法第１８７条第1項にその適正な配置が規定されています。 【林業普及指導事業の目的】 林業技術の改善、林業経営の合理化、森林の整備等を促進し、森林の有する多面的機能の発揮及び林業の持続的かつ健全な発展に資すること。 【林業普及指導員の業務】 森林所有者等に対し、林業に関する技術及び知識を普及するとともに、森林施業に関する指導を行うこと。	
到達目標	普及指導の理念を理解し、林業普及指導員としての役割を自覚する。	
受講要件	新任の林業普及指導員	
定　員	対象者全員	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　師	農林基盤局林務部林務課普及G職員 森林・林業技術センター職員	
開 催 日	令和８年４月20・21日（月・火）	
内容 講義	・普及制度と林業普及指導員のあり方について ・愛知県の林業普及指導の取組 ・森林・林業技術センターの試験研究課題	
内容 実習	・チェーンソーの取扱いについて ・伐倒の基礎技術の習得	
教　材	講師作成のテキスト	

研 修 名	森林クラウド活用研修★	G　10
背景と目的	森林クラウドシステムデータを活用してスマート林業を推進し、林業経営体の育成を図る。クラウドデータの可視化ツールの一つであるQGISの基礎知識・分析の基本操作を習得する。	
到達目標	森林クラウドシステム及びQGISを活用する技術・知識を学び、林業経営体を指導する。	
受講要件	林業普及指導員等	
定　員	10名	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　師	農林基盤局林務部林務課職員	
開 催 日	令和８年７月８日（水）	
内　容	スマート林業技術の活用に欠かせないGISの基礎知識を身に着けるとともに、QGISによる森林情報の管理・分析の基本操作を習得する。	
教　材	講師作成のテキスト	
備　考	１人１台PC（事前にQGISをインストール済）を持参して参加すること	

★は県庁農林基盤局林務部林務課普及グループが実施

※講師及び開催日は変更することがあります。

研修名	森林経営指導実務者研修★	G　9
背景と目的	林業経営体が持続的な林業経営を進めるためには、経営の安定や人材育成を継続して行っていく必要があります。林業経営体の経営・人材育成を支援するために必要な知識や実践的スキルを習得する必要があります。	
到達目標	林業経営体の経営・人材育成を支援するために必要な知識を学び、実践的スキルを習得する。林業経営体の経営状況を読み解き、より良い状態への改善サポートに活かす。	
受講要件	林業普及指導員等	
定　員	各10名　②・③・⑤の演習１のみ20名	
開催場所	愛知県森林・林業技術センターほか	
講　師	①　：林務課職員 ②③⑤⑥：株式会社フォルテ森林技術経営研究所　中尾 友一　氏 ④　：東京農工大学　松本 武　氏	

内容		科　目	内　容	開催日
	①	オリエンテーション	研修の目的や進め方などを説明。	4/23(木)
	②	財務関係	経営分析に必要な財務諸表や総会資料などの読み取り方や経営管理に必要な基礎知識を学ぶ。	5/21(木)
	③	組織体制・経営方針	経営上の課題や問題の発見のための着眼点、それらに基づいた改善提案の仕方を学ぶ。	6/ 2(火)
	④	木材生産コストの構造把握・分析	木材生産コストの考え方と分析方法を学び、コストの計算演習を行う。	9/17・18 (木・金)
	⑤	演習	演習１：テーマを設定し、事例分析の練習を行う。 演習２：自所属の経営体を分析する。	7/ 2(木) 7/16(木)
	⑥	まとめ	研修を振り返ってレポートをまとめ、講師の講評を受ける。他県での経営指導事例を学ぶ。	R9/ 2/18(木)

教　材	講師作成のテキスト
備　考	【G15】林業普及指導研修「木材生産コストの構造把握・分析」を合わせて受講のこと。

★は県庁農林基盤局林務部林務課普及グループが実施

※講師及び開催日は変更することがあります。

研修名	路網整備の技術と実務	G　11
背景と目的	循環型林業を始め木材生産に路網は欠かせません。林業経営体や市町村職員への指導のため、林内の路網配置計画や調査方法、設計・施工方法の知識を習得する必要があります。	
到達目標	路網配置計画の作成、路線設計・作設の方法の知識を習得し、林業経営体や市町村職員への指導に活かす。	
受講要件	林業普及指導員等	
定　　員	５名	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	株式会社中部森林技術コンサルタンツ　黒田 真一　氏ほか	
開 催 日	令和８年８月18日（火）	
内　　容	効率的な作業システムを構築する上での基本的な考え方、路網配置計画の作成、路線設計、作設の具体的方法と留意事項、現地踏査	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	【G3③】森林・林業業務推進研修「路網整備の技術と実務」と同時開催。	

研 修 名		野外レスキュー研修	G　12
背景と目的		林業は他産業に比べて危険度が高く、突出して事故の多い業種のため、万一事故が起こったときの野外救急法の知識を身につけることが、救命率を高め速やかな救助に繋がります。林業経営体の労働安全指導のため、林業普及指導員は基礎知識を身につける必要があります。	
到達目標		交通や通信が不便なことが多い林業の現場で、事故が発生した際の迅速で適切な対応について学び、労働安全指導に活かす。	
受講要件		林業普及指導員等	
定　　員		５名	
開催場所		愛知県森林・林業技術センター	
講　　師		一般社団法人ウィルダネスメディカルアソシエイツジャパン（WMAJ）　職員	
開 催 日		【講義（E-ラーニング）】 令和８年５月29日（金）～６月４日（木）の間に４時間、各自のペースで受講 【実技（集合研修）】 令和８年６月５日（金）（８時間）	
内容	講義	野外救急法の必要性、救助要請に時間がかかる現場で必要な人体の知識、命の緊急事態に対応する救命処置法の紹介	
	実技	事故・災害による傷病者の評価方法と措置、事故現場を想定したシミュレーショントレーニング	
教　　材		講師作成のテキスト	
備　　考		【E1】林業現場技能者育成研修「野外レスキュー研修」と同時開催。	

※講師及び開催日は変更することがあります。

研修名	林業架線研修（設置・撤去）	G　13
背景と目的	森林資源の循環的な利用を図り、持続的な林業経営を進めるためには、現地の状況に適した林業機械や作業システムの選択が必要です。 特に急傾斜地においては、路網作設には限界があることから、近年、架線集材による効率的な作業システムの必要性が高まっています。	
到達目標	林業架線作業に必要な機械集材装置の架設及び撤去の方法について学び、作業計画作成等をサポートする。	
受講要件	林業普及指導員等	
定　員	各日10名	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　師	林業架線技士　株式会社緑豊　天野 昭浩　氏 愛知県森林・林業技術センター職員	
開 催 日	令和８年11月17・18日（火・水）、令和８年12月１日（火）	
内容 講義	・林業架線システムの基礎知識	
内容 実習	・エンドレスタイラー式の設置、運転、撤去	
教　材	講師作成のテキスト	
備　考		

研 修 名	目標林型と育林技術	G　14
背景と目的	森林資源を有効に活用し、木材生産量を拡大して行くためには、循環型林業を推進する必要があります。そのためには植林・保育の際の目標や指標、育林技術を学ぶ必要があります。	
到達目標	森林をどう仕立てていくか（目指す森林が目標林型）、環境・生態・経済性の視点から考え方や育林技術を学び、林業経営体や市町村職員を指導する。	
受講要件	林業普及指導員等	
定　員	５名	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　師	森林総合研究所　奥田 史郎　氏	
開 催 日	令和８年９月１日（火）	
内　容	・目標林型を考える上での知識と指標及び育林技術について	
教　材	講師作成のテキスト	
備　考	【A4/A11】林業現場技能者育成研修「目標林型と育林技術」と同時開催。	

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	木材生産コストの構造把握・分析	G　15
背景と目的	林業経営体が、持続的な林業経営を進めるためには、木材の生産を強化し、収益性を向上させ、事業地を確保していく必要があります。そのためには、木材生産のコスト構造を把握・分析し、改善を重ねていく必要があります。	
到達目標	木材生産プランの立案や現場管理に必須である木材生産コスト管理方法を演習を通じて学び、林業経営体への指導に活かす。	
受講要件	林業普及指導員等	
定　　員	５名	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	東京農工大学　松本 武 氏	
開 催 日	令和８年９月17・18日（木・金）	
内　　容	・利用間伐等の事業コスト・売上額の　基本構造や収支の算出方法について	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	【A7/A11】林業現場技能者育成研修「木材生産コストの構造把握と分析」と同時開催。	

研 修 名	植栽と獣害対策	G　16
背景と目的	ニホンジカ（以下シカ）の個体数増加や分布の拡大は本県においても依然継続しています。造林地を確実に成林させるためには、シカから防護しなければなりません。そのためには、シカの行動原理を理解し、正しい防護技術を知り、適切な管理を継続することが大切です。 令和４年３月に循環型林業技術ガイドライン「獣害対策版」を改訂しました。林業普及指導員は、ガイドラインを普及するだけでなく、知識・技術を学び、ガイドラインをブラッシュアップしていく必要があります。	
到達目標	主流となったコンテナ苗の植栽とシカ等の特性や獣害対策の要を学び、適切な指導ができるスキルを身につける。	
受講要件	林業普及指導員等	
定　　員	５名	
開催場所	未定	
講　　師	有限会社カワイ製作所　職員、元　京都大学助教授　高柳 敦　氏	
開 催 日	令和８年11月９日・10日（月・火）	
内　講義	・野生動物被害から造林地を守る手法について（11月９日午後）	
容　実習	・植栽および効果的な獣害防止柵の施工指導（11月10日終日）	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	【A8/A11】林業現場技能者育成研修「植栽と獣害対策」と同時開催。	

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	木材流通と加工	G　17
背景と目的	木材の利用推進には、木材の流通も重要です。木材の流通の仕組み、木材市場の役割、木材加工施設での加工を知り、需要のある木材の生産や生産した木材の適切な販売先などを考え、より有利に販売をすることを林業経営体に考えてもらうことが重要です。	
到達目標	木材の流通、加工から利用までのサプライチェーンを知り、需要の変化に対応した生産体制の必要性を学び、有利販売についての助言ができるようになる。	
受講要件	林業普及指導員等	
定　　員	５名	
開催場所	三河材流通加工センター（ホルツ三河）	
講　　師	三河材流通加工センター職員・愛知県森林組合連合会職員	
開 催 日	令和８年11月13日（金）	
内　　容	木材流通の仕組み、木材市場の役割、製材工場の基礎を理解する。	
教　　材	講師作成資料	
備　　考	【A9/A11】林業現場技能者育成研修「木材流通と加工」と同時開催。	

研 修 名		刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育	G　18
背景と目的		刈払機による刈払い作業は、労働災害の発生率が高い作業の1つです。特に林業の下刈り作業では、刈払機使用中の転倒、刈刃の跳ね返りなど重篤な災害が発生するとともに、刈刃による切創から死亡災害に至る事故も発生しています。刈払機の構造・作業の注意点を学び、林業従事者へ労働安全指導をしていく必要があります。	
到達目標		安全衛生教育を修了して刈払機の安全な操作方法を習得し、労働安全指導に活かす。 （厚生労働省通達「刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育について」に基づく安全衛生教育の受講）	
受講要件		林業普及指導員等	
定　　員		10名	
開催場所		愛知県森林・林業技術センター	
講　　師		合同会社新城キッコリーズ　田實 健一　氏	
開 催 日		令和８年８月20日（木）	
内容	講義	・関係法令(0.5h)　・振動障害及びその予防に関する知識(2.0h) ・刈払機に関する知識(1.0h)　・刈払機を使用する作業に関する知識(1.0h) ・刈払機の点検及び整備に関する知識(0.5h)	
	実習	・刈払機の作業等（1h）	
教　　材		・「安全な刈払機作業のポイント」（出版：林業・木材製造業労働災害防止協会）を各所属で購入の上、参加のこと。	
備　　考		・所属に刈払機がある場合は持参のこと	

※講師及び開催日は変更することがあります。

研修名	伐木等の業務に係る特別教育	G　19
背景と目的	林業における労働災害は、チェーンソーによる伐木等の作業に起因した割合が高く、死亡災害も起きています。 伐木等作業における労働災害を防止するためには、伐木等作業において十分な安全衛生管理がなされ、適切な方法で伐木等作業が行われること及びチェーンソーの跳ね返り等による危険から労働者を防護すること等の対策を適切に講じることが必要不可欠です。	
到達目標	特別教育を修了して伐木造材に関する知識、チェーンソーに関する知識及び技術を習得し、的確な労働安全指導に活かす。 （労働安全衛生規則第36条第８号に掲げる業務に係る特別教育の受講）	
受講要件	林業普及指導員等	
定　　員	10名	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター	
講　　師	株式会社アーバンフォレストリー　吉見 次郎氏	
開 催 日	令和８年12月７～９日（月～水）	
内容　講義	・伐木等作業に関する知識（4.0h） ・チェーンソーに関する知識（2.0h） ・振動障害及びその予防に関する知識（2.0h） ・関係法令（1.0h）	
内容　実習	・伐木等の方法（5.0h） ・チェーンソーの操作（2.0h） ・チェーンソーの点検及び整備（2.0h）	
教　　材	・伐木等作業者用チェーンソー作業の安全ナビ（出版：林業・木材製造業労働災害防止協会）を各所属で購入の上、参加のこと。	

（３） 林政研修

※講師及び開催日は変更することがあります。

研 修 名	林務行政の概要	G　20
背景と目的	林務関係課の新規採用職員として、必要な基礎知識を習得し、国や本県の林業施策への理解を深める必要があります。	
到達目標	林務行政の概要を把握し、担当業務の位置づけを確認する。	
受講要件	林務関係課の新規採用職員	
定　　員	対象者全員	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター他	
講　　師	農林基盤局林務部林務課職員等	
開 催 日	令和８年５月７日・８日（木・金）	
内　　容	・愛知県の林務行政の概要、事前課題に基づきディスカッション ・関連施設見学　等	
教　　材	講師作成のテキスト	
備　　考	併せて【G1】森林・林業等基礎研修の受講をお勧めします。	

研 修 名	林務行政の課題	G　21
背景と目的	課長補佐級・主査級職員は、本県林政の推進について、現状の把握と分析・課題を解決するための方策等を常に念頭に置きながら、担当業務を進める必要があります。 また、後進の指導育成についても明確なビジョンを持って対応することが重要です。	
到達目標	林務行政の課題を認識し、自分の考えを整理する。	
受講要件	林務関係課で新たに課長補佐級・主査級となった者	
定　　員	対象者全員	
開催場所	愛知県森林・林業技術センター他	
講　　師	農林基盤局林務部林務課職員等	
開 催 日	令和８年６月８日・９日（月・火）	
内　　容	・林務行政の課題について、事前課題に基づきディスカッション ・関連施設見学　等	
教　　材	講師作成のテキスト	

３　資格取得研修一覧（再掲）

NO.	資　格　等	左記が取得できる研修	
1	①「森林整備工事における主任技術者」 の資格（本研修の修了と５年以上の森林整備工事の実務経験による） ②「機械集材装置運転特別教育」 修了証	B2	林業現場技能者育成研修
2	「ロープ高所作業特別教育」 修了証	B3	枯損木等特殊伐採技術向上研修 「ｱｰﾎﾞﾘｶﾙﾁｬｰ技術の習得研修（初級）」
3	①「フルハーネス型墜落制止用器具特別教育」 修了証 ②「林業架線作業主任者免許」 取得申請が可能（本研修の修了と２年以上の実務経験による）	C2	林業架線作業主任者育成研修
4	「刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育」 修了証	A1 F1	林業就業支援研修 刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育
5	「伐木等の業務に係る特別教育」 修了証	A1 F2	林業就業支援研修 伐木等の業務に係る特別教育 （チェーンソー講習）
6	「機械集材装置運転特別教育」 修了証	F3	機械集材装置運転特別教育
7	「走行集材機械の運転業務に係る特別教育」 修了証	F4	走行集材機械（フォワーダ等）運転業務特別教育
8	「簡易架線集材装置・架線集材機械運転業務に係る特別教育」 修了証	F5	簡易架線集材装置・架線集材機械（スイングヤーダ等）運転業務特別教育
9	「伐木等機械の運転業務に係る特別教育」 修了証	F6	伐木等機械（ハーベスタ等）運転業務特別教育
10	「伐木等の業務に係る特別教育修了者再教育 （安全衛生教育）」 修了証	F8	伐木等の業務に係る特別教育修了者再教育
11	「地域林政アドバイザー研修」 修了証	G6	地域林政アドバイザー研修

※令和８年２月末時点です。今後変更される場合があります。

Ⅴ　森林・林業研修年間カレンダー

※令和８年２月現在。開催日は変更することがあります。赤字は仮日程。

	4		5		6		
1	水		金		月	かかり木処理・枯損木伐倒技術研修（A日程）	1
2	木		土		火	林業普及研修（森林経営実務者）	2
3	金		日	憲法記念日	水	かかり木処理・枯損木伐倒技術研修（B日程）	3
4	土		月	みどりの日	木		4
5	日		火	こどもの日	金	野外レスキュー／林業普及研修（野外レスキュー）	5
6	月		水		土		6
7	火		木	林政研修（林務行政の概要）	日		7
8	水	林業就業支援研修／伐木等の業務に係る特別教育	金		月	林政研修（林務行政の課題）	8
9	木		土		火		9
10	金		日		水	測量等基礎研修	10
11	土		月	森林・林業等基礎研修	木		11
12	日		火	アーボリカルチャー技術の習得研修（リギング中級）	金	林業架線作業主任者育成研修（学科8日間）	12
13	月	アーボリカルチャー技術の習得研修（ロープクライミングとリギング初級）	水		土		13
14	火		木		日		14
15	水		金	林業就業支援研修（チェーンソー基礎）	月	林業架線作業主任者育成研修（学科8日間）	15
16	木		土		火		16
17	金		日		水		17
18	土		月	無人航空機（ドローン）基礎知識研修	木		18
19	日		火	森林管理研修（②林業ICT技術（森林クラウドシステム基礎操作））	金		19
20	月	新任者林業普及指導員研修	水		土		20
21	火		木	林業普及指導（森林経営指導実務者）	日		21
22	水	林業就業支援研修（労働安全）	金	林業就業支援研修（チェーンソー基礎）	月	林業架線作業主任者育成研修（学科8日間）	22
23	木	林業普及指導（森林経営指導実務者）	土		火		23
24	金	林業就業支援研修（道具のメンテナンス）	日		水	伐木等の業務に係る特別教育	24
25	土		月	伐木技術指導者育成研修	木		25
26	日		火		金		26
27	月		水		土		27
28	火	林業就業支援研修／刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育	木		日		28
29	水	昭和の日	金	林業就業支援研修（チェーンソー基礎）	月	林業安全技術訓練（チェーンソー技術）初級	29
30	木		土		火		30
31			日				31

※令和８年２月現在。開催日は変更することがあります。赤字は仮日程。

	7		8		9		
1	水	林業安全技術訓練（チェーンソー技術）初級	土		火	林業現場技能者育成／林業普及指導（目標林型と育林技術）	1
2	木	林業普及指導（森林経営指導実務者）	日		水	簡易架線集材装置等運転特別教育（実技ワイヤー加工）	2
3	金	森林管理研修（①森林経営管理法）／地域林政ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ研修	月	林業架線作業主任者育成（実技9日間）	木		3
4	土		火	↓	金	林業現場技能者育成研修（高性能林業機械の活用）	4
5	日		水	↓	土		5
6	月		木	↓	日		6
7	火	森林・林業業務推進研修①／地域林政ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ研修	金	↓	月		7
8	水	林業普及指導（森林クラウド活用）	土		火	林業現場技能者育成研修（伐倒技術の向上）	8
9	木	森林・林業業務推進研修②／地域林政ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ研修	日		水	↓	9
10	金		月		木		10
11	土		火	山の日	金		11
12	日		水		土		12
13	月		木		日		13
14	火	走行集材機械運転特別教育（学科）	金		月		14
15	水	伐木等機械運転特別教育（学科）	土		火		15
16	木	簡易架線集材装置等運転特別教育（学科）／林業普及研修（森林経営実務者）	日		水	刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育	16
17	金		月		木	林業現場技能者育成／林業普及指導（木材生産コストの構造把握・分析）	17
18	土		火	路網作設技能者育成／森林・林業業務推進③／地域林政ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ／林業普及指導（路網）	金	↓	18
19	日		水		土		19
20	月	海の日	木	林業普及指導（刈払機取扱者の安全衛生教育）	日		20
21	火	チェーンソー技術強化研修（伐木競技会事前研修）	金	路網作設技能者育成研修（視察）	月	敬老の日	21
22	水	↓	土		火	国民の休日	22
23	木	↓	日		水	秋分の日	23
24	金	林業架線作業主任者育成研修（フルハーネス特別教育）	月		木		24
25	土		火	森林吸収源対策	金		25
26	日		水		土		26
27	月	林業架線作業主任者育成研修（実技9日間）	木	林業ICT技術研修（森林クラウドシステム基礎操作）	日		27
28	火	↓	金	林業ICT技術研修（県内取組事例）／意欲と能力のある	月	伐木等の業務に係る特別教育	28
29	水	↓	土	林業事業体育成研修	火	↓	29
30	木	↓	日		水	↓	30
31	金		月				31

※伐木安全技術研修会（伐木競技会）は令和8年の秋に実施予定

※令和８年２月現在。開催日は変更することがあります。赤字は仮日程。

	10	11	12	
1	木	日	火 林業普及指導研修（林業架線研修：撤去）	1
2	金	月	水	2
3	土	火 文化の日	木	3
4	日	水	金	4
5	月 林業安全技術訓練（チェーンソー技術）中級	木	土	5
6	火 ↓	金	日	6
7	水	土	月 林業普及指導（チェーンソー特別教育）	7
8	木	日	火 ↓	8
9	金	月 林業現場技能者育成/林業普及指導（植栽と獣害対策）	水	9
10	土	火 ↓	木	10
11	日	水	金	11
12	月 体育の日	木	土	12
13	火 路網作設技能者育成研修（実技）	金 林業現場技能者育成/林業普及指導（木材流通と加工）	日	13
14	水 ↓	土	月	14
15	木	日	火	15
16	金	月	水 伐木等の業務に係る特別教育修了者再教育	16
17	土	火 林業普及指導研修（林業架線研修：架設）	木	17
18	日	水 ↓	金	18
19	月	木	土	19
20	火	金	日	20
21	水	土	月	21
22	木	日	火	22
23	金	月 勤労感謝の日	水	23
24	土	火 機械集材装置運転特別教育	木	24
25	日	水 ↓	金	25
26	月	木	土	26
27	火	金 林業現場技能者育成（危機管理リスクアセスメント）	日	27
28	水 伐木等の業務に係る特別教育	土	月	28
29	木 ↓	日	火	29
30	金	月	水	30
31	土		木	31

※令和８年２月現在。開催日は変更することがあります。赤字は仮日程。

	1	2	3	
1	金	月	月	1
2	土	火	火	2
3	日	水	水 伐木等の業務に係る特別教育	3
4	月	木	木 ↓	4
5	火	金	金 ↓	5
6	水	土	土	6
7	木	日	日	7
8	金	月	月	8
9	土	火	火	9
10	日	水	水	10
11	月　成人の日	木　建国記念の日	木	11
12	火	金	金	12
13	水	土	土	13
14	木	日	日	14
15	金	月	月	15
16	土	火	火	16
17	日	水	水 刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育	17
18	月	木 林業普及指導（森林経営指導実務者）	木	18
19	火	金	金	19
20	水	土	土	20
21	木	日	日　春分の日	21
22	金	月	月　振替休日	22
23	土	火　天皇誕生日	火	23
24	日	水	水	24
25	月	木	木	25
26	火	金	金	26
27	水	土	土	27
28	木	日	日	28
29	金		月	29
30	土		火	30
31	日		水	31

愛知県森林・林業技術センター　研修実施要領

（目　的）

第１　愛知県森林・林業技術センター（以下「センター」という。）は、林業生産性の向上並びに林業従事者の育成と資質の向上を図ることを目的に、林業従事者等に対し、森林・林業に関する新しい知識及び技術についての研修を行う。

（研修実施内容）

第２　センターが実施する研修は、次の各号に掲げる森林・林業研修並びに森林・林業関係の技術向上を目的に活動する団体等がセンターと連携して行う研修、及びその他、センター所長（以下「所長」という）が適当と認めた研修とする。

（１）　林業従事者研修

（２）　行政職員研修

（施設及び研修機材の管理）

第３　当センターの研修施設及び研修機材の利用について、以下のとおり定める。なお、試験林の利用については、別に定める試験林利用規則によるものとする。

２　第２に定める研修については、施設利用に関する許可申請の手続きを必要としないが、効率的な施設利用の観点から、当センターと施設及び研修機材の利用に関する事前調整を行うものとする。

３　施設及び研修機材の利用に際し、故意または重大な過失による破損、紛失があったと認められる場合には、関係法令に基づく損害賠償請求を行う場合がある。

４　研修機材の外部持ち出しについては、原則として、第２に定める研修以外にはこれを認めない。なお、持ち出す場合は、参考様式「研修物品等借用書」により、事前に所長の承認を得るものとする。

（研修実施計画）

第４　所長はセンターが実施する研修について、毎年度、研修実施計画（以下「実施計画」という）を策定するものとする。

２　所長は、実施計画を策定するにあたって、あらかじめ原則６月に次年度の研修の要望聴取を行うものとする。

３　所長は、実施計画を策定したときは、農林基盤局長に報告するものとする。

（研修の講師）

第５　研修の講師は実施計画に基づき、センター職員、並びに所長があらかじめ依頼する業務担当職員及び外部講師によるものとする。

（研修の申込み）

第６　受講を希望する者は、研修ごとに別途定める様式によりセンターへ受講を申し込むものとする。

（受講の許可）

第７　所長は、林業従事者研修において、第５により受講申込みのあった者のうちから、次の各号に該当する者に、受講を許可する。

（１）愛知県内に在住で、森林・林業に携わっている者。
（２）愛知県外に在住で、森林・林業に携わっている者で、勤務場所が愛知県内にある者。
（３）その他所長が適当と認める者。
２　申込みが多数で受講定員を上回る場合は、県内在住の申込者を優先する。

（修了証書）
第８　所長は、修了証書が必要とされる研修を修了した者に、修了証書（様式第１号、またはこれによりがたい場合は所長が適当と認めた様式）を交付することができる。

（受講者の義務）
第９　受講者は、研修期間中、別途所長が定める「受講にあたって」を遵守しなければならない。
２　受講者は、やむを得ない事情により、研修を欠席、または辞退することができる。
なお、研修の一部について受講ができない場合は、「受講欠席届」を、研修全体の受講を取りやめる場合は、「研修辞退届」を所長に提出するものとする。（様式第２号）

（研修の中止又は延期）
第１０　研修実施日において、次の各号等により災害発生が予想される場合、及び研修の実施が困難な場合には研修を中止又は延期する。なお研修の再開は、臨時情報・警報等の解除等がされた場合とする。
（１）「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震警戒）」が発表されている場合、または愛知県内において震度５強以上の地震が発生した場合。
（２）午前７時の時点で、研修を実施する市町村において、「暴風警報」が発表されている場合。
（３）その他、所長が必要と認めた場合。

（研修記録）
第１１　所長は、研修ごとに受講者出欠簿（様式第３号）を作成し、出欠確認を行うものとする。

（研修効果の測定）
第１２　所長は、研修の期間中又は終了直後において、受講者に対し、試験等により研修効果の測定を行うことができるものとする。

（実績報告）
第１３　所長は、当該年度末までに研修実績報告（様式第４号）を作成し、農林基盤局長に報告するものとする。

附　　則　昭和４６年　８月　１日から施行する。
最終改正　令和　６年　４月　１日から施行する。

Ⅶ　受講にあたって

1　はじめに

愛知県森林・林業技術センターは、林業従事者等に対し、森林・林業に関する新しい知識及び技術についての研修を行い、林業生産性の向上並びに林業従事者の育成と資質の向上を図ることを目的としています。

受講生の皆さんには、より良い成果が得られるよう次の事を守り、有意義な研修にしてください。

2　受講のための留意事項

(1)　一般事項

・受講者決定通知は原則メールでお送りします。受付時間までに来所ください。

・受講中は規律を守り、態度、言葉使い及び服装を正しく保ってください。

・講義の始まる5分前には席について受講準備を行ってください。

・講師に対して失礼のないように受講してください。

また、特に講義の始めと終わりは礼をしてください。

・研修の機材、材料の準備及び片付けは、講師や研修担当職員の指示により、受講生が行ってください。

・研修で使用する機材及び物品等は丁寧に扱ってください。

・研修に使用しない機材及び物品等はさわらないでください。

・研修場所以外の施設に、勝手に立ち入らないようにしてください。

・当センター内は禁煙です。

・実習のある研修は、行動に注意し事故のないよう気をつけてください。

・健康には十分注意し、体調が悪くなったときは研修担当職員へ申し出てください。

・研修中に事故等にあった場合は、研修担当職員に連絡し指示を受けてください。

・昼食等は各自で用意してください。**当センター内に自動販売機はありません。**

・持ち込んで発生したゴミについては、各自ですべて持ち帰ってください。

・研修館へのスパイク靴での入室は禁止です。

(2)　注意事項

・講義中の電話の取り次ぎは、緊急を要する場合に限って行います。

・講義中は、携帯電話の電源を切るか、マナーモードにしてください。

・公務または緊急の用務で、やむを得ずセンターの電話を使って外部へ電話しなければならない場合は、研修担当職員に申し出てください。

・公務または緊急の用で、やむを得ず途中で研修を欠席する場合は、研修担当職員に報告し、受講

欠席届又は受講辞退届を提出してから帰るようにしてください。

○ その他注意事項

・車を運転する際は、**交通安全意識を確認し、事故防止に努めて**ください。

「車を運転中は、運転に集中し、細心の注意を払う。」

「スピードを出さない。」

「ゆとりを持って目的地へ向かう。」

「防衛運転に心がける。」

「早めにライトを点灯する。」

3 感染症対策について

（1）当センターの予防対策

○愛知県森林・林業技術センターでは、皆様に安心してご利用頂くために、感染症について、下記の対策を行った上で研修を実施します。

・手指消毒液の設置

・適切な換気、消毒

・３密（密集、密接、密閉）の回避

・講師及び受講生、担当職員の健康状態の確認

○また、感染症の流行拡大状況により、研修を中止する場合がございます。

（2）受講生の皆さんへのお願い

○研修中は、感染症予防対策へご理解とご協力をお願いします。

（様式第２号）

年　　月　　日

愛知県森林・林業技術センター所長 殿

事業体名

代表者氏名

受 講（欠 席／辞 退）届

下記のとおり受講を（欠 席／辞 退）しますのでお届けします。

記

研修名	
期　日	年　　月　　日～　　年　　月　　日
受講者氏名	
事　由	

※この欄は記入しないで下さい。

担当者確認欄 年　　月　　日

〔提出先〕
愛知県森林・林業技術センター
管理研修課
〒441-1622
愛知県新城市上吉田字乙新多 43 番地 1
shinrin-ringyo-c@pref.aichi.lg.jp

＜欠席の場合＞
申込み後研修を欠席する場合に提出してください。

（様式第２号）

令和＊年＊月＊日

愛知県森林・林業技術センター所長 殿

事業体名　　〇〇株式会社

代表者氏名　　代表取締役　愛知　太郎

受 講 （欠 席／辞 退） 届

下記のとおり受講を（欠 席／辞 退）しますのでお届けします。

記

研修名	〇〇〇〇研修
期　日	令和＊年＊月＊＊日～～～～年～～～～月～～～～日
受講者氏名	林業　次郎
事　由	※受講辞退の理由を記入してください。（体調不良等）

※この欄は記入しないで下さい。

担当者確認欄 年　　月　　日

〔提出先〕
愛知県森林・林業技術センター
管理研修課
〒441-1622
愛知県新城市上吉田字乙新多 43 番地 1
shinrin-ringyo-c@pref.aichi.lg.jp

＜辞退の場合＞
申込み後研修を辞退する場合に提出してください。

（様式第２号）

令和＊年＊月＊日

愛知県森林・林業技術センター所長 殿

事業体名　　〇〇株式会社

代表者氏名　　代表取締役　愛知　太郎

受 講 （欠 席 / 辞 退） 届

下記のとおり受講を（欠 席 / 辞 退）しますのでお届けします。

記

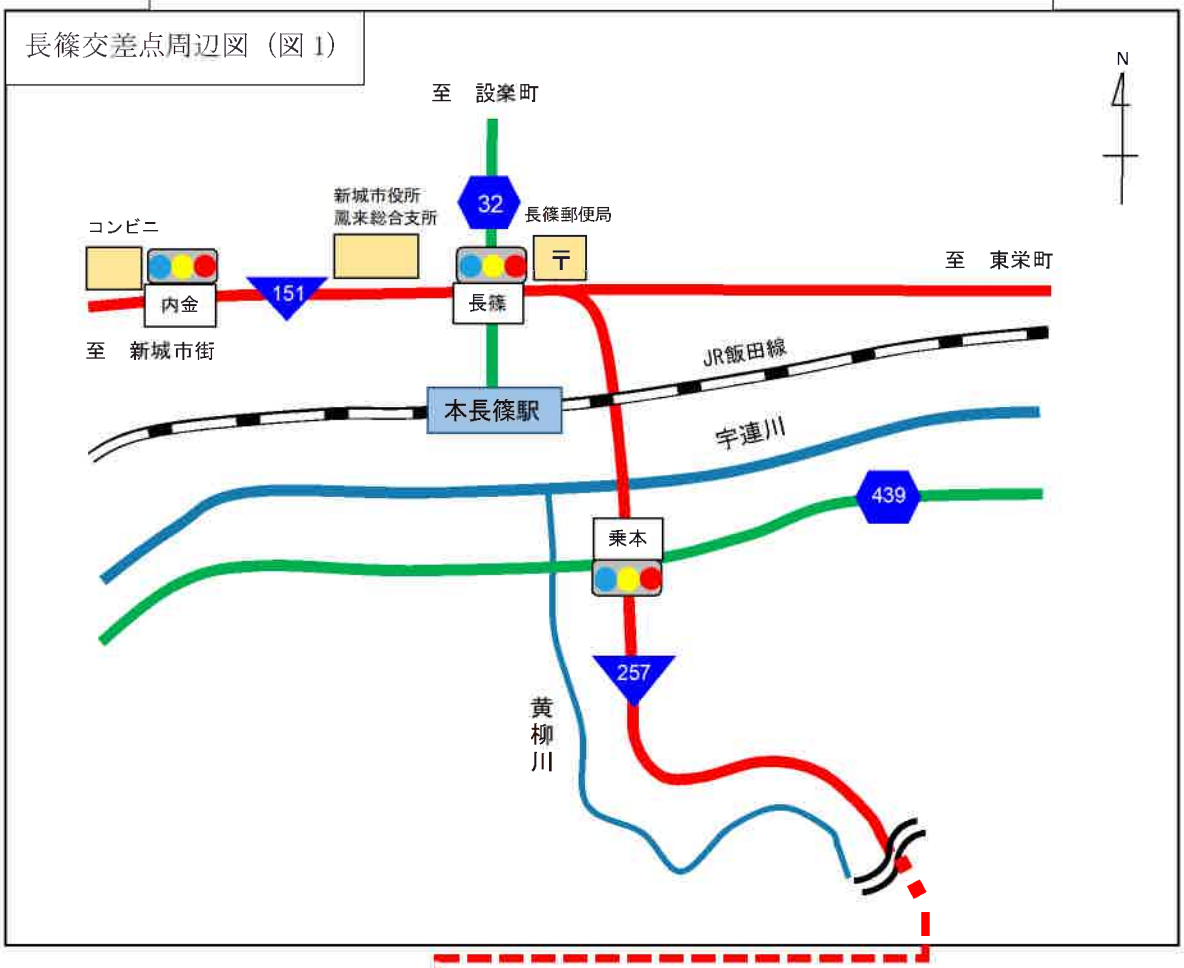
研修名	〇〇〇〇研修
期　日	令和＊年＊月＊＊日～令和＊年＊月＊＊日 ※複数日ある研修を辞退する場合は、研修期間を記入してください。
受講者氏名	林業　次郎
事　由	※受講辞退の理由を記入してください。（体調不良等）

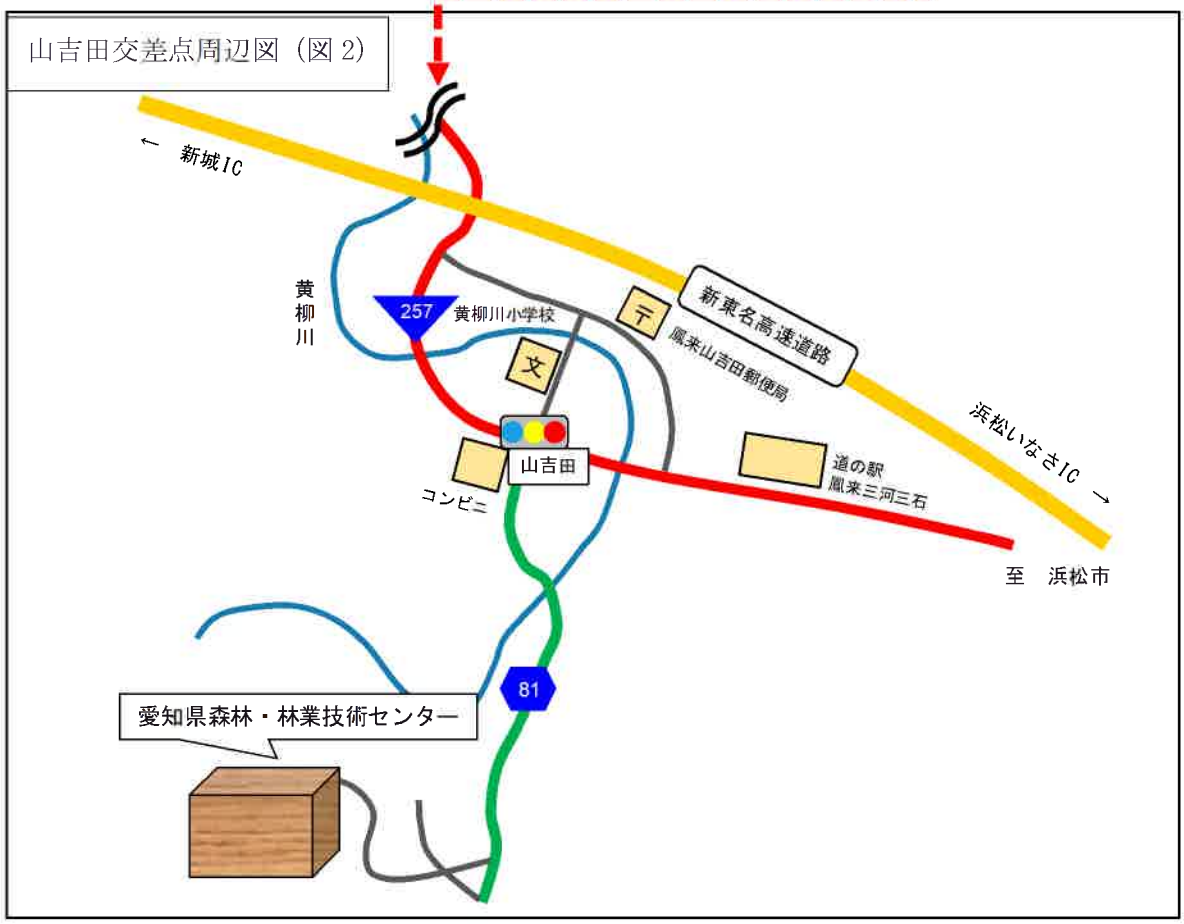
※この欄は記入しないで下さい。

担当者確認欄 年　　月　　日

〔提出先〕
愛知県森林・林業技術センター
管理研修課
〒441-1622
愛知県新城市上吉田字乙新多 43 番地 1
shinrin-ringyo-c@pref.aichi.lg.jp

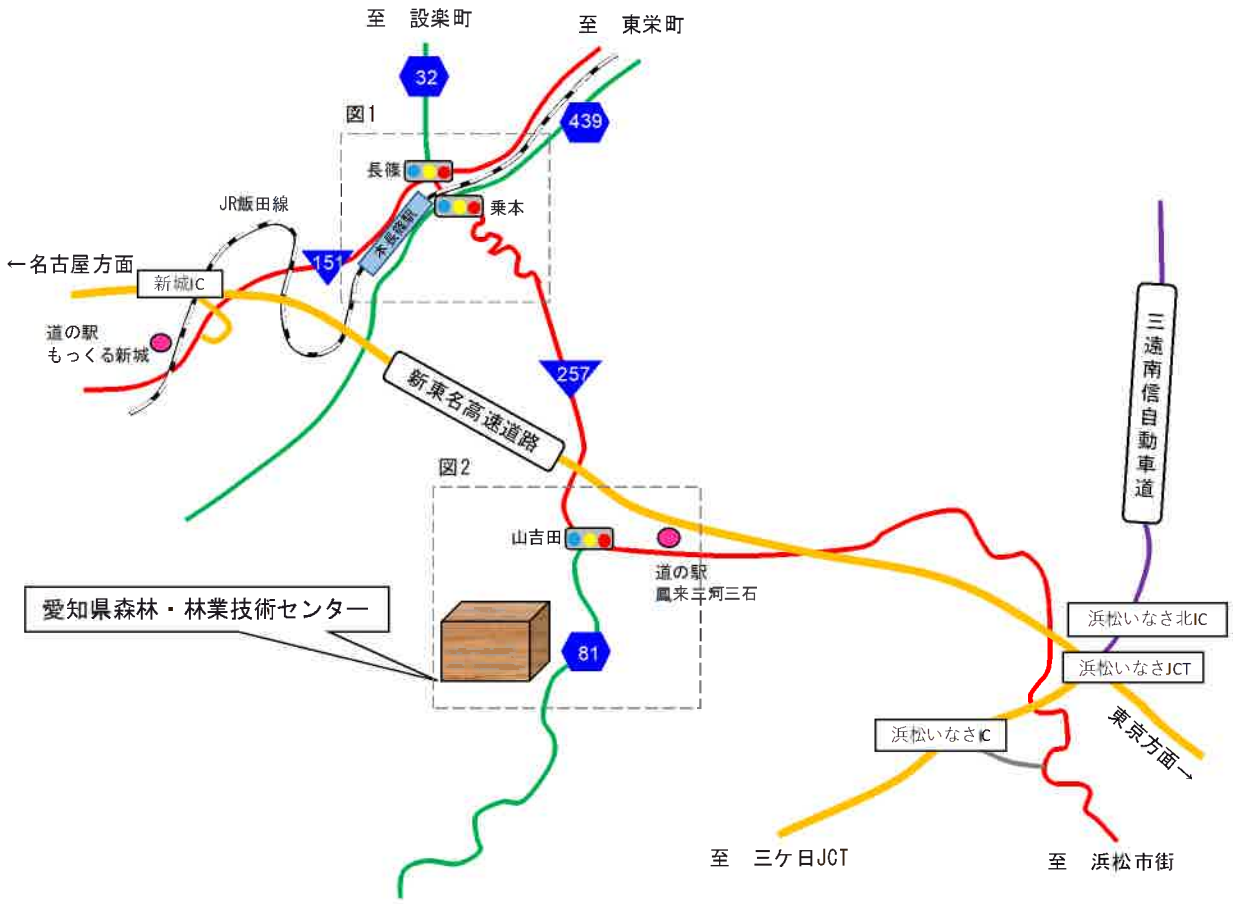
愛知県森林・林業技術センター　案内図（詳細図）





広域図は裏面

愛知県森林・林業技術センター　案内図（広域図）



・国道 151 号線「長篠」交差点から浜松方面へ車で約 10 分。
・新東名高速道路「新城 IC」から車で約 20 分。
・新東名高速道路「浜松いなさ IC」から長篠方面へ車で約 15 分。
（東栄町、豊根村方面からは三遠南信自動車道「浜松いなさ北 IC」が便利です。）

愛知県森林・林業技術センター

所在地：〒441-1622
愛知県新城市上吉田字乙新多４３－１
電　話：０５３６－３４－０３２１
ＦＡＸ：０５３６－３４－０９５５
メール：shinrin-ringyo-c@pref.aichi.lg.jp
ＵＲＬ：https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shinrin-ringyo-c/